

〔お願い〕 試運転が正常でない場合、途中で停止し、リモコンにエラーコードを表示します。
この場合「エラーコード表示について」(下表) または取扱説明書の「故障かな?」を
参照してください。

〈エラーコード表示について〉

表 示	現 象	原 因	処 置 方 法
――	浴室リモコン・台所 リモコンの表示が出 ない。	浴室リモコン・台所リモ コンに電池が入っていな いためです。 電池が正しく入っていな いためです。	浴室リモコン・台所リモコンに電 池(アルカリ乾電池単3形LR6各2 個)を入れてください。 電池を正しく入れ直してください。
OFF	運転スイッチを押し てもOFF表示のまま。	画面が表示するのに約20 秒かかる場合があります。	しばらくすると画面表示します。 (故障ではありません。)
760	試運転操作をしても 動かない。	浴室リモコンと本体ある いは台所リモコンと本体 との通信ができていない ためです。	本体右側面の通信ユニット(無線 部)の3桁ラベルと浴室リモコン、 台所リモコンの3桁ラベルの番号が 一致しているか確認してください。 運転スイッチを再度押してください。
		本体の電源プラグが差し 込まれていないためで す。	電源プラグを差し込み、運転スイッ チを押してください。(画面が表示するの に1分程度かかる場合があります。)
412	試運転操作をしても、浴 そうへお湯はりしない。	給水元栓が閉まっている ためです。	給水元栓を開けてください。
111	試運転操作をしても、浴 そうへ水だけ出て点火し ない。	ガス栓が閉まっているた めです。	ガス栓を開けてください。
		配管内に空気がたまって いるためです。	再度、試運転操作をしてください。
002	試運転スイッチを押し た後、追いだき運 転し、停止する。	浴そうに水が残っている 状態で試運転を行ったた めです。	浴そうの水を抜いて、試運転スイ ッチを押してください。

〔お知らせ〕 電源プラグを差し込んだ時、機器本体で音が発生しますが、異常ではありません。
モーターの位置を初期化しているために発生している音です。

■ 設置後の試運転時のご注意

- 機器本体のフロントカバーに貼付の「ガス工事・水道工事・電気工事・試運転をされる方への
お願い」をよく読んで実施してください。
- 試運転が終わりましたら、凍結予防のため、水抜きを必ず行ってください。

■ 水ストレーナの掃除

- 試運転が終わったら、給水接続口にある水ストレーナを取り外し、ストレーナの掃除を行って
ください。

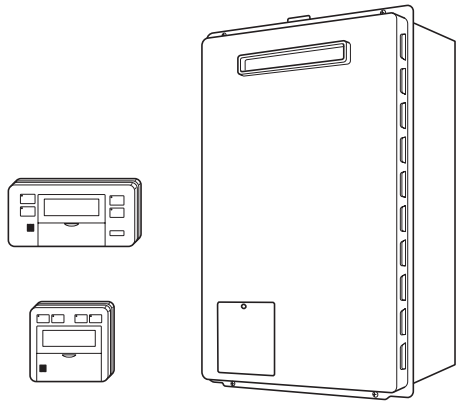
■ お客様への説明

- 取扱説明書に従って、取扱方法をご説明ください。
- 保証書に必要な事項を記入のうえ、お客様にお渡しください。また取扱説明書に従って「アフタ
ーサービス」についてご説明ください。

〈製造者〉 松下電器産業株式会社 トワレ・ヒーティングビジネスユニット
〒639-1188 奈良県大和郡山市筒井町800
電話 (0743) 56-1121

家庭用 ガス給湯機付ふろがま (屋外式)

- 品 番 GJ-C24T4 (24号・自動タイプ)
GJ-C20T4 (20号・自動タイプ)
GJ-C16T4 (16号・自動タイプ)
GJ-F24T4 (24号・全自動タイプ)
GJ-F20T4 (20号・全自動タイプ)



* 工事される方へのお願い

この工事説明書は、工事作業者が正しく、
安全な工事をするために必要な手引書です。
工事開始前に必ずお読みください。
本書の設置条件をはずれた設置が原因で生じた
故障などは、保証期間内であっても保証の対象
になりませんので、ご注意ください。
設置工事後、この工事説明書は取扱説明書と
一緒に、お客様にお渡しください。

も く じ

	ページ
設置工事後の点検	2
機器本体とリモコンの確認	3
同梱部品の確認	3
別売品	4
安全上のご注意	5
設置上のごお願い	10
標準設置図	11
外形寸法図	12
機器の設置	13
追いだき配管工事	15
給水配管・給湯配管・排水処理・ガス配管工事	22
電気工事	23
〈コードレスリモコンの場合〉	
●通信ユニットの取付工事	24
●リモコン用取付板の取付工事	26
〈コード接続式リモコンの場合〉	
●リモコンの取付工事	32
試運転	38

この工事説明書はコード接続式リモコン、コードレスリモコン共通です。
設置するリモコンを確認の上、必要箇所をお読みになってください。
共通する説明のイラストは、コード接続式リモコンで説明しています。

● 工事をされる方へ ●

定期点検が必要です。

お客様に次のことを説明していただき、定期点検を行ってください。

●本製品は一般家庭用の製品です。使用頻度の高い業務用にご使用の場合は安全確保のため必ず定期点検を受けてください。

●ご使用上支障がない場合でも、不慮の事故を防ぎ、安心してより長くご使用いただくために、定期点検を行ってください。

なお、給水用具（逆流防止装置）に関しては、（社）日本水道協会発行の「給水用具の維持管理指針」に示されている定期点検の実施をおすすめします。時期は4～6年に1回程度をおすすめします。

お買い上げの販売店にご相談ください。

●バーナー、送風機、熱交換器などの点検（年1回程度）
（そのままにしておくと、思わぬ事故や製品寿命に影響を及ぼします。）

●機器が古くなると熱交換器やバーナーにサビやスス、ほこりなどがつまったりします。

また取付場所によりバーナーに「くも」が巣をはることがあり、ときどきご使用中に異常（異常音、排気に不快な臭い、目にしみるなど）がないか確認してください。異常に気づかれた場合は、使用を中止し、ガス栓を閉めてお買い上げの販売店またはもよりのガス事業者へご連絡ください。

設置工事後の点検

■チェックリスト

点 検 項 目		点 検 内 容	参照ページ	チェック
機器及びその周辺	ガス種	銘板は使用するガス種に適合していますか。	6	
	電源(電圧・周波数)	銘板は使用する電源電圧(100 V)・周波数(50/60 Hz)に適していますか。	6	
	可燃物との離隔距離	可燃物との離隔距離、火災予防上の措置は十分ですか。	6	
	設 置 条 件	障害物、窓等との離隔距離は十分ですか。	6	
	保守・管理上の空間	点検・修理に必要な空間はありますか。	10	
	給 排 気	十分給排気できる場所に設置されていますか。	6	
電気工事	水平・安定設置	水平に設置され、ガタツキはないですか。	8	
		電源工事は指定された工事がされていますか。	23	
給 水 給 湯 配 管		アース線の接続は確実ですか。	23	
		給水元栓を開け、給湯栓から水が出ることを確認しましたか。	38	
		水ストレーナにゴミ等がついていませんか。	裏表紙	
		配管接続部からの水漏れはありませんか。	38・39	
追 い だ き 配 管		保温を完全に行いましたか。	22	
		配管接続部からの水漏れはありませんか。	18・20	
ガス接続工事		接続は正しく施工され、ガス漏れはありませんか。	23	

機器本体とリモコンの確認

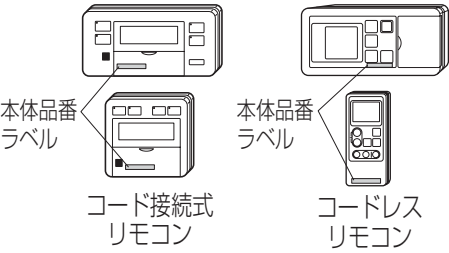
● 工事をされる方へのお願い ●

■この機器に使用できるリモコンは、下記の通りです。
下記以外のリモコンの場合正常に作動しません。

	別 売 品 品 番
コード接続式 コミュニケーションリモコン	●GJ-P424W(浴室リモコン+台所リモコン)
コード接続式 ボイスリモコン	●GJ-P414S(浴室リモコン) ●GJ-P414(台所リモコン) ●GJ-P414W(浴室リモコン+台所リモコン)
コードレス リモコン	●GJE-P404S(浴室リモコン+通信ユニット) ●GJE-P404(台所リモコン) ●GJE-P404W (浴室リモコン+台所リモコン+通信ユニット) ●GJE-P303(増設リモコン)

■設置工事が終わったら2ページのチェックリストに基づいて必ず再確認を行ってください。

■機器本体に同梱の本体品番ラベルの中から、本体品番を照合してリモコンに貼り付けてください。



同梱部品の確認

区分	部 品 名	形 状	数量	区分	部 品 名	形 状	数量
ふろ配管接続用	ふろ接続継手		2	本体設置用	小ねじ (M5×長さ8)	 PS用	4
	パッキン		2		木ねじ (呼びφ5×長さ38)	 壁面固定用	4
—	取扱説明書 工事説明書		各1		カールプラグ (φ7.2×長さ32)		4
—	保証書		1		PS取付金具		2
—	本体品番ラベル		1		小ねじ (PS取付金具固定用) (M4×長さ8)		4

別 売 品

■循環アダプター

		外 観			
循環アダプター・R型	ロー付けタイプ	AD-G381-R 〈ショートタイプ〉		AD-G381-LL 〈ロングタイプ〉	
	フレアナット 接続タイプ	AD-G381-RF 〈ショートタイプ〉		AD-G381-LFL 〈ロングタイプ〉	
循環アダプター・S型	ロー付けタイプ	AD-G381-S 〈ショートタイプ〉		AD-G381-SL 〈ロングタイプ〉	
	フレアナット 接続タイプ	AD-G381-SF 〈ショートタイプ〉		AD-G381-SFL 〈ロングタイプ〉	
循環アダプター	樹脂管用L・R型	AD-G381-RP 〈ショートタイプ〉		AD-G381-LPL 〈ロングタイプ〉	
	樹脂管用S型	AD-G381-SP 〈ショートタイプ〉		AD-G381-SPL 〈ロングタイプ〉	

■2心ケーブル線

品 名		品 番
リモコン用 ケーブル (灰色・2心) (シールド線付)	3 m	AD-GWP102-3
	5 m	AD-GWP102-5
	8 m	AD-GWP102-8
	10 m	AD-GWP102-10
	15 m	AD-GWP102-15
	20 m	AD-GWP102-20
	50 m	AD-GWP102-50

形 態	シールド線付	
	端 子 同 こん	端 子 付
		
品 番	AD-GWP102P-50	AD-GWP102
条 件	2心ケーブル…1本	2心ケーブル…1本
ケーブル外径A	約Φ9 mm	Φ6.8 mm
※必要電線管内径	Φ21 mm以上	Φ15 mm以上

■その他別売品

部品名	漏れ検査治具	浴室リモコン用厚壁スリーブ	排気カバー	ツインホース
品番	AD-G381-Z	AD-3722-1	AD-G211P7 AD-G211P7-B	AD-G3005(0.5 m) AD-G3010(1.0 m) AD-G3020(2.0 m) AD-G3030(3.0 m) AD-G3050(5.0 m) AD-G3020H(20 m)
外 観				
用 途	ふろ追いだき配管の漏れ検査用	厚壁(220~335 mm)の場合に使用	隣の家の窓付近に排気が吹き付ける場合に使用	ふろ追いだき配管に使用
部品名	据置台セット		配管カバーセット	
品番	AD-G211P1・AD-G211P1-B		AD-G211P2・AD-G211P3	

安全上のご注意 (必ずお守りください)

共通
コードレスリモコン
コード接続式リモコン

- 施工される人への危害・物的損害を未然に防止するため、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、設置工事において必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。
- 表示内容を見逃して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

	危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
	警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

	この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

危険

屋内に設置しない

燃焼排ガスが室内に充満したり、正常な給排気ができないため異常燃焼し、酸欠や一酸化炭素中毒などの原因となります。

警告

周囲の壁・天井などが防火上安全なものであるか、または防火上有効な間隔をとることができる場所に設置する

上記の距離を確保しないと、火災の原因となります。

次の法、基準、指針、条例に従って設置する

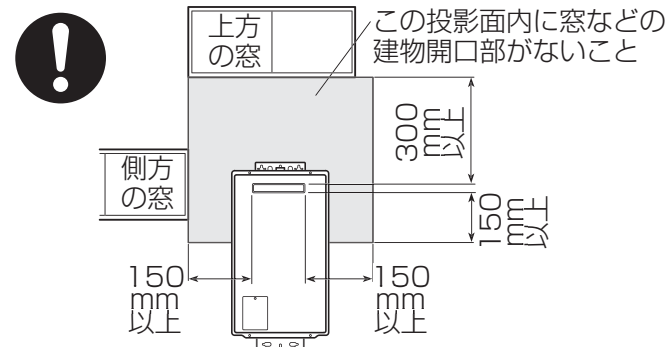
- 建築基準法
- 電気設備技術基準
- ガス事業法
- 液化石油ガス法
- 水道法
- 電気工事士法
- 内線規定
- 電気用品安全法
- 日本ガス機器検査協会発行の「ガス機器の設置基準及び実務指針」
- 消防法に基づく火災予防条例に定める防火処置
- 当該地区の市・町・村火災予防条例

上記に従わないと思わぬ事故の原因となります。

安全上のご注意 (必ずお守りください)

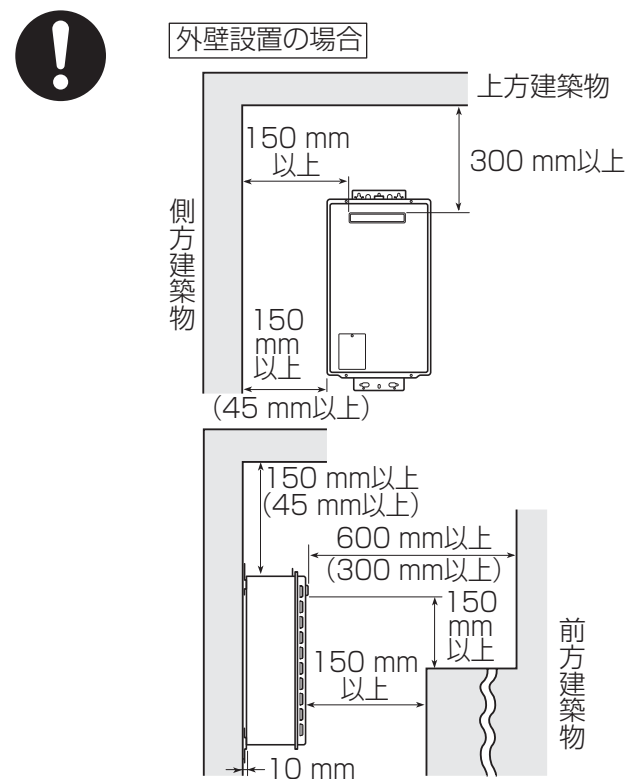
警告

周辺はできる限り開口部のない場所に設置する
(もし上方に窓のある場合は300 mm以上、側方にある場合は150 mm以上離してください。)



室内に排気ガスが流入すると酸欠や一酸化炭素中毒の原因となります。

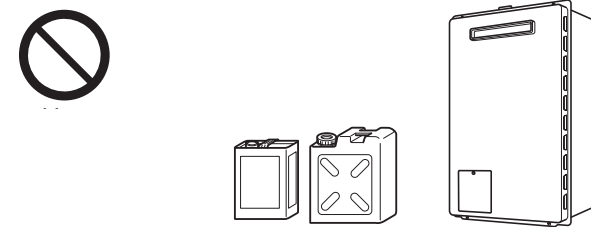
可燃物までの距離は本体からと排気口からの両方を満足する



※ ()内は周囲の壁・天井に防熱板を取り付けた場合の寸法です。
※上記とは別にメンテナンススペースを確保する。
(10ページ参照)

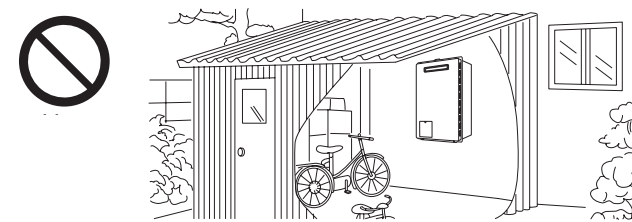
上記の距離を確保しないと機器または建築物が過熱し、火災の原因となります。

ガソリン、ベンジン、灯油、接着剤などの引火性の危険物を扱う場所には設置しない



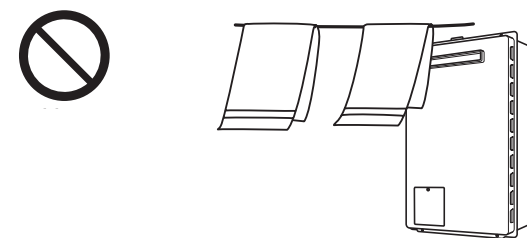
火災の原因となります。

増改築などにより屋内状態にしない



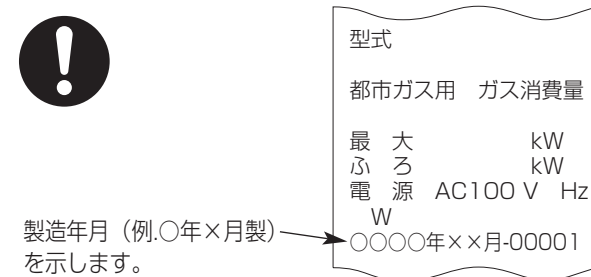
十分な給気ができないため不完全燃焼し、一酸化炭素中毒などの原因となります。

洗濯の物干し場など燃えやすいもののあるところには設置しない



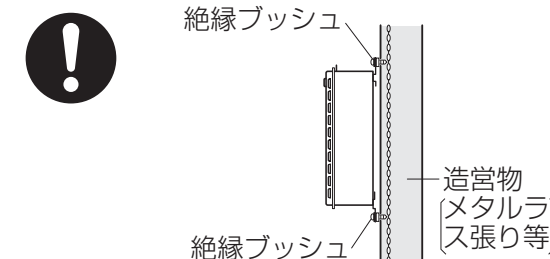
火災の原因となります。

銘板に表示の電源 (電圧・周波数) およびガス種を使用する



他のガス種・電源を使用すると機器が正常に作動しなくなり、異常燃焼し一酸化炭素中毒や火災の原因となります。

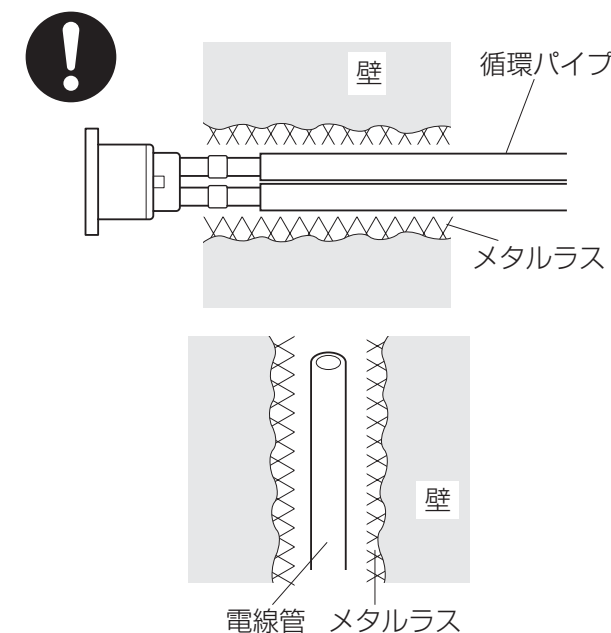
メタルラス張りなどの壁の場合は、機器とメタルラスとは電氣的に接続しないようにする
※電気設備技術基準条により義務づけられています。



直接壁に取り付ける場合は、別売の絶縁ブッシュを使用してください。

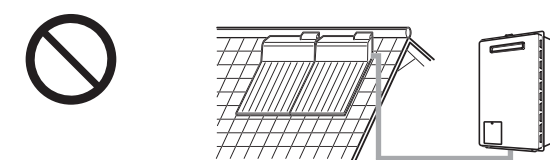
漏電が発生した場合、感電や火災の原因となります。

メタルラスと循環パイプ・金属電線管・スリーブとは電氣的に接続しないようにする (メタルラス張りなどの壁の場合)
※電気設備技術基準により義務づけられています。



漏電が発生した場合、感電や火災の原因となります。

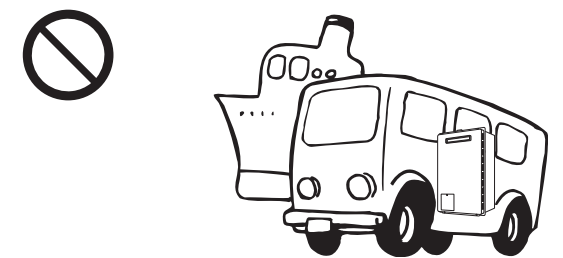
ソーラー (太陽熱温水) システムに接続しない



高温水が出て、やけどや機器故障の原因となります。

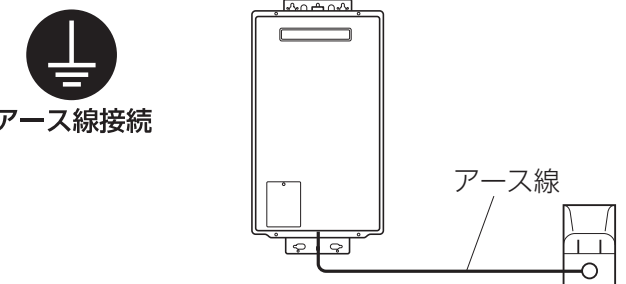
注意

車両・船舶への設置はしない



振動により機器が転倒し、火災や機器故障の原因となります。

アース接続する



漏電が生じた場合、感電の原因となります。

換気扇、レンジフードなどからの風が機器の給排気に影響を与える場所への設置はしない (業務用の換気扇、レンジフードは特に注意する)



レンジフードなどからの排気が機器にかかると不完全燃焼などの原因となります。






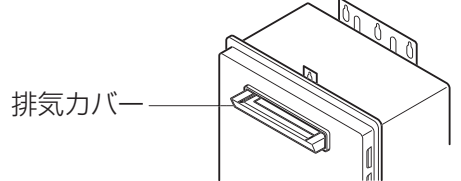




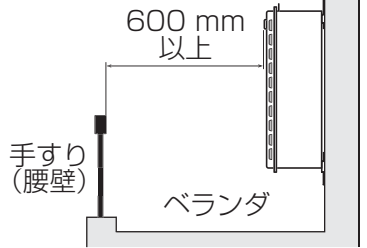





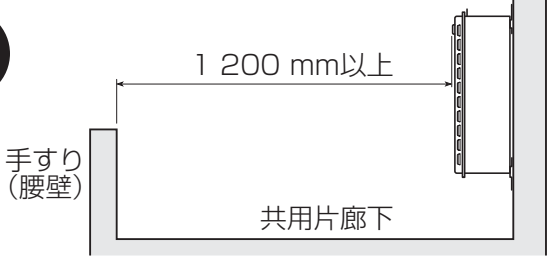


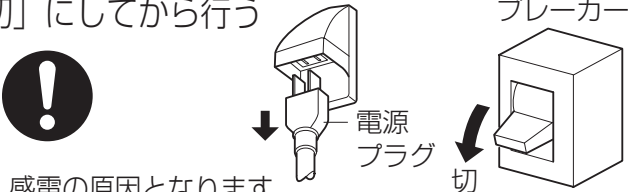


クリーニング店・工場などで使用される業務用薬品 (アンモニア・イオウ・塩素・エチレン化合物・酸類など) を使用する場所には設置しない



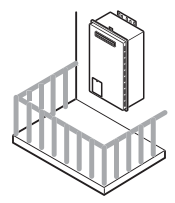
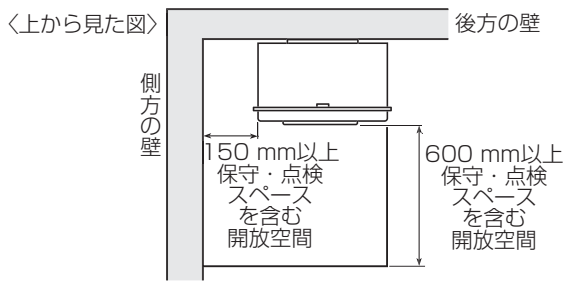
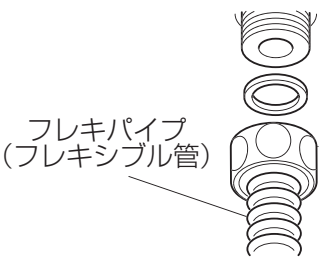
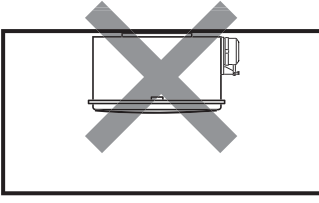
塩素系溶剤は腐食性ガスの発生により金属のさびや機器故障、また健康を害する原因となります。

安全上のご注意 (必ずお守りください)

注意

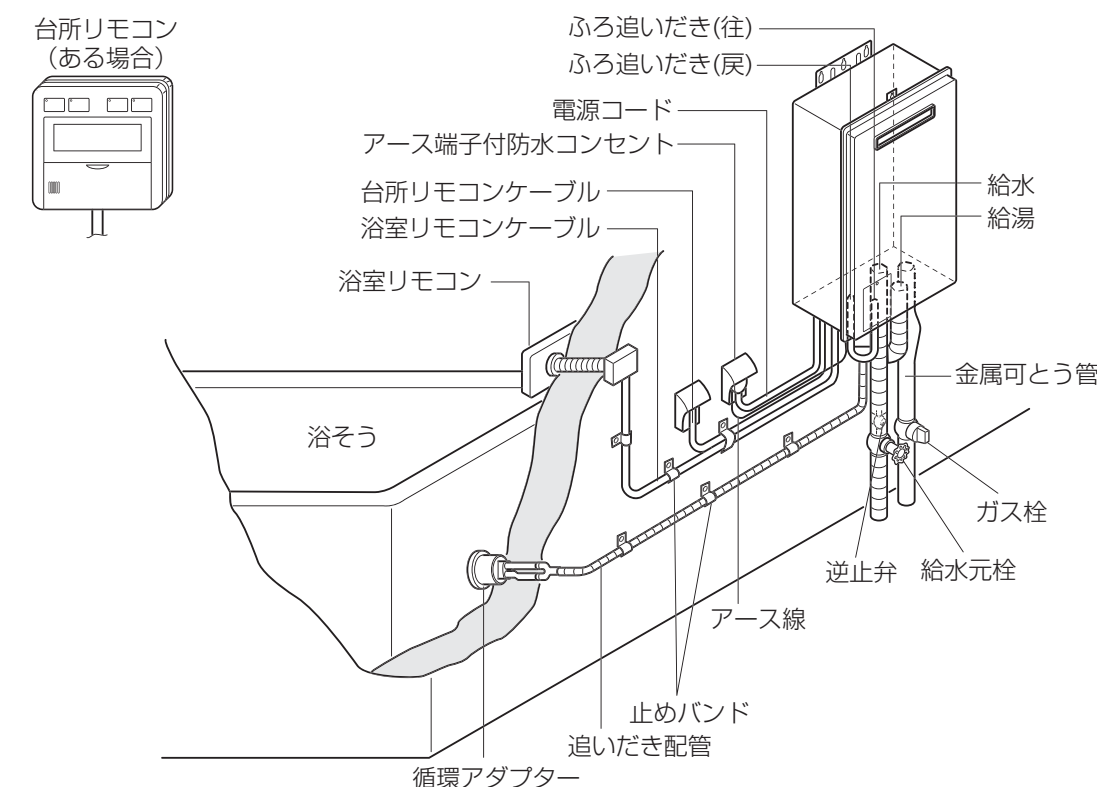
<p>排気ガスが、直接建物の外壁やアルミサッシなどに当たらないように設置する、また、動植物への影響も考慮する</p>  <p>外壁の変色、アルミサッシの腐食、動植物への危害の原因となります。</p>	<p>階段、避難口近くへ設置しない</p>  <p>緊急時の避難がスムーズにできなくなります。</p>	<p>くぼみや突出物で囲まれた場所には設置しない</p>  <p>気流の乱れにより正常な給排気ができなくなり、不完全燃焼の原因となります。</p>	<p>排気方向1 m以内に網入り板ガラスがある場所に設置しない</p>  <p>網入り板ガラスが割れる原因となります。(やむを得ず設置する場合は、排気方向の変更を行う)</p>
<p>排気ガスが隣の家に入り込む恐れのある場合、また植栽に直接あたる場合は別売品の排気カバーを取り付ける(この場合上方可燃物とは600 mm以上離してください。)</p>   <p>室内に排気ガスが流入すると一酸化炭素中毒の原因となります。また、植栽に排気ガスが直接あたると枯れたりします。</p>	<p>2階以上では、落下防止の柵などのある場所に設置する</p>  <p>地震などで機器が落下した場合、家屋の損傷およびケガの原因となります。</p>	<p>共同通路などに面し、手を触れるおそれのある場所に設置されるときは、柵などで防護処置をする(ただし、本体からと排気口からの離隔距離を両方満足する)</p>  <p>1 200 mm以上 共用片廊下</p> <p>防護処置がない場合はやけどの原因となります。</p>	<p>排水状況を確認し機器が冠水するような状態に設置しない(据置設置の場合)</p>  <p>火災や、異常燃焼による機器故障の原因となります。</p>
<p>ベランダなどが避難通路となる場合は、600 mm以上の避難通路を確保する</p>   <p>600 mm以上 手すり(腰壁) ベランダ</p> <p>緊急時の避難がスムーズにできなくなります。</p>	<p>異常燃焼や、凍結予防のための水抜きが十分でなくなります。</p> <p>設置場所によっては近隣の家と騒音によるトラブルが生じることがあるため、お客様とよく相談し、十分配慮して設置する</p>  <p>騒音が気になったり、排気ガスで植栽が枯れたりします。(壁などの反響によって音が大きくなることもあります。)</p>	<p>必ず基礎(不燃材)の上に設置する(据置設置の場合)</p>  <p>可燃材の上に設置すると火災の原因となります。</p> <p>据置台の脚を外して地面に密着させたり、機器の底が埋め込まれた設置をしない(据置設置の場合)</p>  <p>機器底部からも燃焼に必要な空気を取り入れており、不完全燃焼の原因となり危険です。また、据置台の腐食の原因となったり、アフターメンテができなくなります。</p>	<p>機器を設置した真下の地面・床面は水がたまらないように排水処理工事を行う</p>  <p>機器が冠水の状態になると十分な給気ができなくなり、異常燃焼による機器故障の原因となります。</p>
<p>集合住宅の共用片廊下に設置する場合には、1 200 mm以上の避難通路を確保する</p>   <p>1 200 mm以上 手すり(腰壁) 共用片廊下</p> <p>緊急時の避難がスムーズにできなくなります。</p>	<p>必ず垂直な壁に取り付ける(壁掛設置の場合)</p>  <p>異常燃焼や、凍結予防のための水抜きが十分でなくなります。</p>	<p>電気配線・配管は、ガスメーターやガス配管に接触させない</p>  <p>漏電した場合、感電や火災の原因となります。</p> <p>工事は、電源プラグを抜く、またはブレーカーを「切」にしてから行う</p>  <p>感電の原因となります。</p>	<p>この機器を設置する床には約32 kgの質量(据置台を含む)が加わるので、十分な補強工事をする(据置設置の場合)</p>  <p>約32 kg</p> <p>十分な補強工事がされないと、機器が転倒する恐れがあります。</p> <p>この機器を設置する外壁には約28 kgの質量が加わるので、十分な補強工事をする</p>  <p>約28 kg</p> <p>十分な補強工事がされないと、機器が落下する恐れがあります。</p>

設置上のお願い

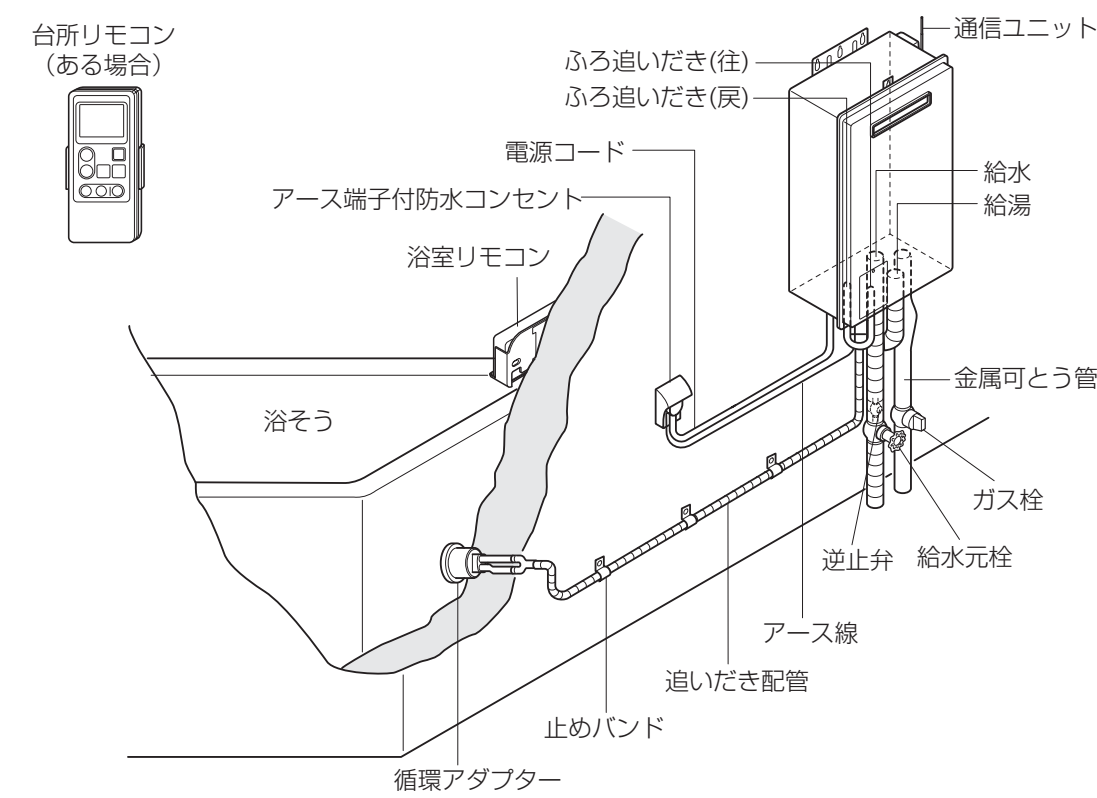
<p>高所に機器を設置する際は、機器本体正面に作業スペースを設ける</p>  <p>アフターメンテができなくなります。(作業ができない場合はアフターメンテをお断りすることがあります。)</p>	<p>機器の点検・修理ができるように十分なスペースを確保する（機器前方は600 mm以上の空間を設けてください）</p>  <p>アフターメンテができなくなります。(作業ができない場合はアフターメンテをお断りすることがあります。)</p>
<p>給水配管工事は給水事業者の指定工事店に依頼する（給水事業者の規定に従う。）</p> <p>配管など正常に設置されないと、機器故障の原因となります。</p>	<p>機器下方にも、配管工事および水抜き操作のできる十分なスペースを確保する</p> <p>アフターメンテができなくなります。(作業ができない場合はアフターメンテをお断りすることがあります。)</p>
<p>給水、給湯の接続は修理の際などに分解できるようにフレキ接続する</p>  <p>アフターメンテができなくなります。</p>	<p>リモコン取付工事では、必要のないねじは絶対に締めたり、ゆるめたりしない</p> <p>機器故障の原因となります。</p>
<p>機器は全周が金属でおおわれた場所に設置しない（コードレスリモコンの場合）</p>  <p>電波が通らず通信不能となります。</p>	<p>コード接続式リモコンとコードレスリモコンとは併設しない</p> <p>機器故障の原因となります。</p> <p>壁が金属の場所および強い電磁界を発生する場所には設置しない（コードレスリモコンの場合）</p> <p>機器本体とリモコンの間で通信できない場合があります。</p>

標準設置図

＜コード接続式リモコン＞



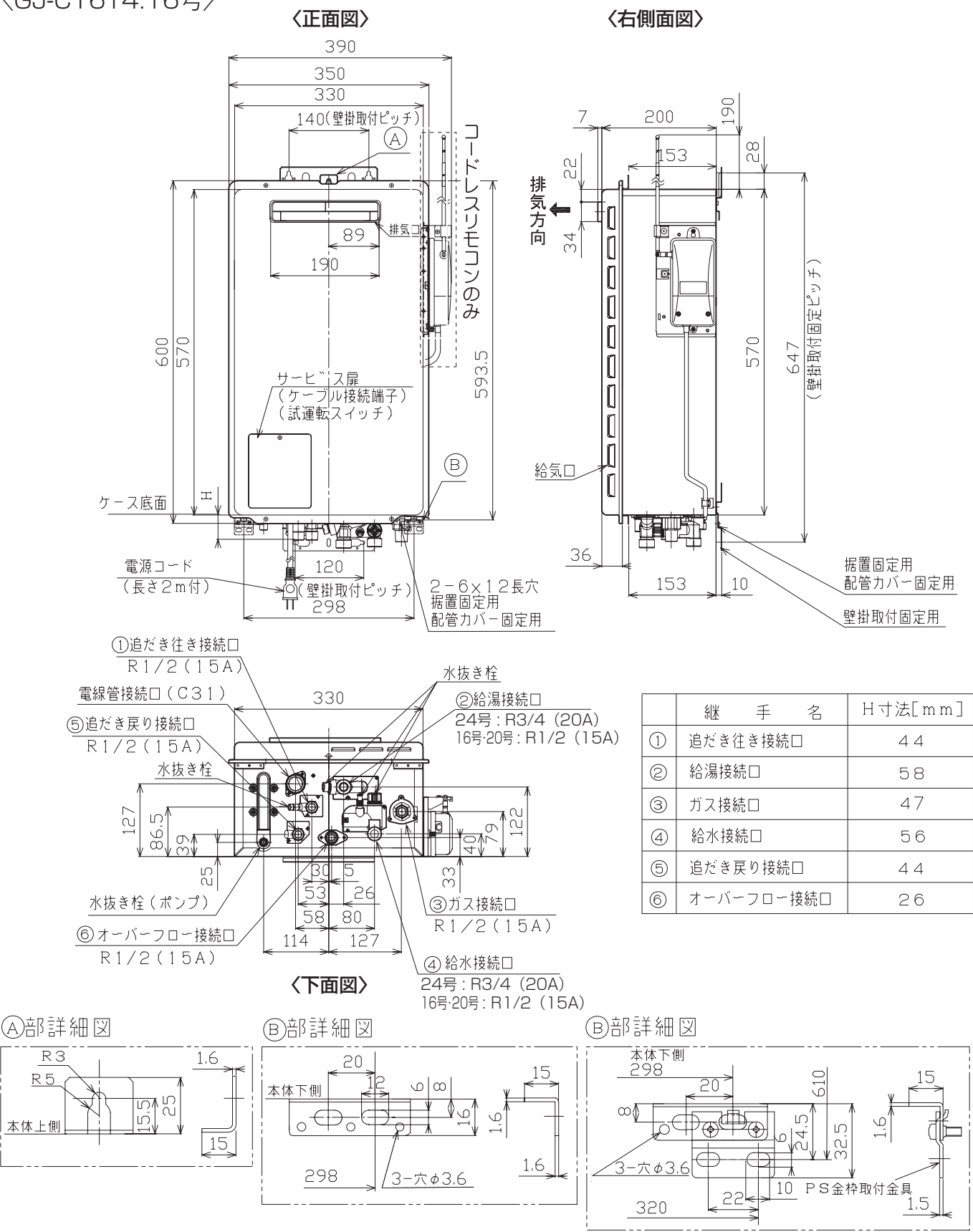
＜コードレスリモコン＞



外径寸法図

<GJ-C24T4・F24T4:24号>
<GJ-C20T4・F20T4:20号>
<GJ-C16T4:16号>

[単位:mm]



※BL用PS金枠に設置する場合の寸法図
(本体に同梱)

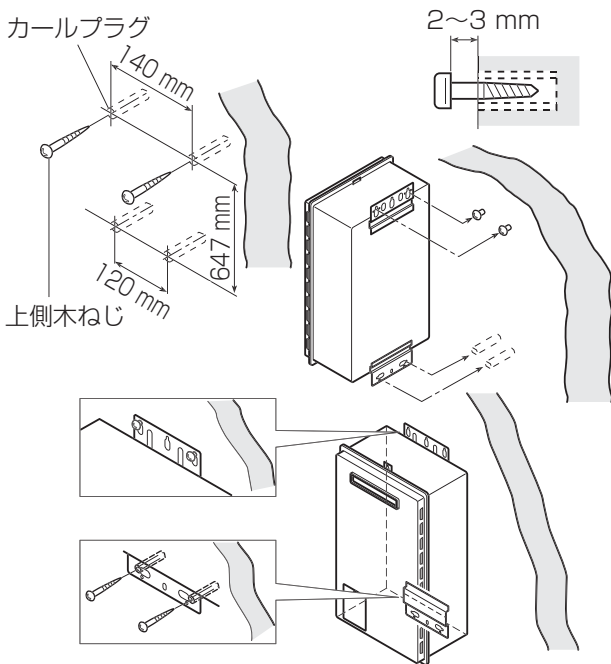
機器の設置

外壁設置の場合

●コードレスリモコンの場合、通信ユニットの取付が必要です。取付方法についてはP24の通信ユニットの取付方法をお読みください。

(1)取付手順

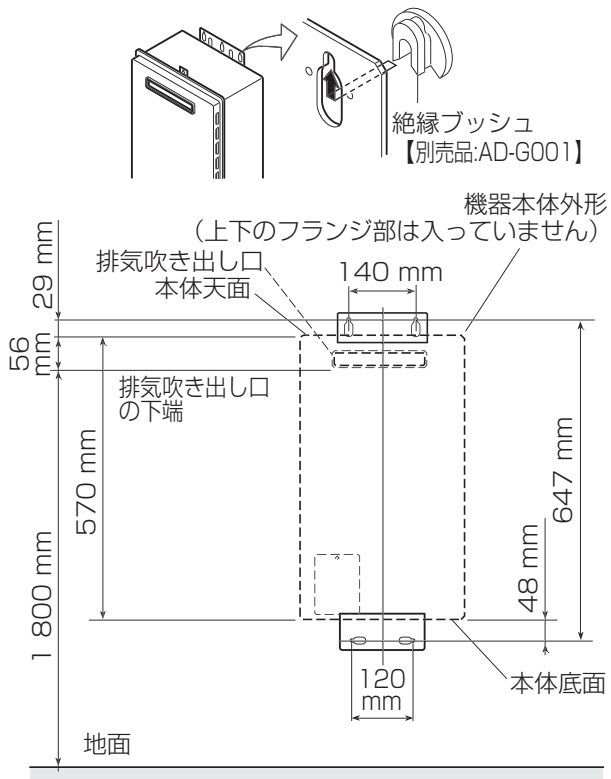
- ①機器の取り付け位置にカールプラグを取り付ける。
- ②上部に木ねじを右図のように2~3 mm 残し、取り付ける。
- ③機器本体を取り付ける。
[お願い]
●ゆがみ・ズレのないように、取り付けてください。
- ④木ねじ4本(上側2本、下側2本)で本体を壁に固定する。



(2)設置図

別売品の絶縁ブッシュを使用するときは、右図のように取付板に固定し、木ねじで固定します。(ただし、壁取付ピッチの647が637、下側取付ピッチ120が100に変わります。)

- 右図は排気吹き出し口の下側を地面から1 800 mm (1 m80 cm)の高さにした場合の設置図例です。
- 据置台セット・配管カバーセットを使用する場合、各々に同梱している説明書に従って工事してください。



機器の設置

パイプシャフト設置の場合

※集合住宅のパイプシャフト内へ設置する場合

- 取付金枠が必要です。取付金枠は別売品をご使用ください。
- ※通信ユニットを取り付ける場合にはP24の通信ユニットの取付方法をお読みください。

(1)取付手順

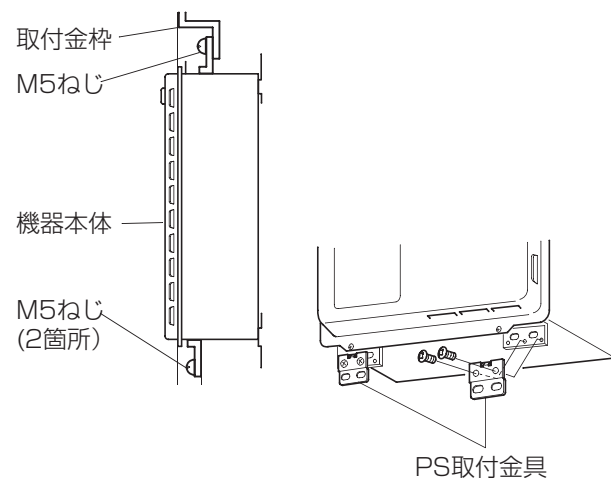
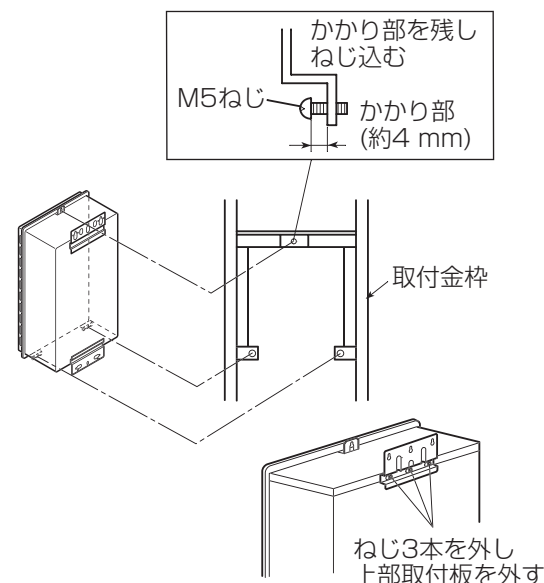
①M5ねじ(同梱部品)を取付金枠上部に、かかり部(約4 mm)を残し、ねじ込んでください。

②パイプシャフト取付金具上方の穴を取付金枠上部のM5ねじに引っ掛けてください。
必要に応じて、本体後面のねじ3本を外し、上部取付板を取り外してください。

（本体後面の上部取付板が機器設置の障害となる場合、上部取付板を取り外してください。）

③パイプシャフト取付金具下方の2か所の穴を取付金枠に合わせ、M5ねじで固定した後、上方のM5ねじを締めてください。

※B L用取付金枠へ取り付ける場合には、同梱のP S取付金具を右図のように機器へ取り付けてください。



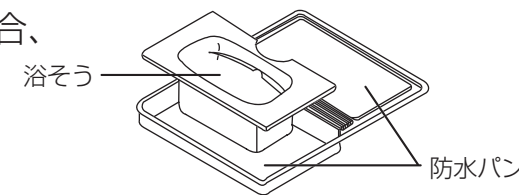
(2)機器本体とパイプシャフト内配管・メーターの納まりについて

- 電源は機器本体に直結してください。
- ガスメーターやガス配管と電気配管は接触させないでください。
- パイプシャフト内設置の扉の上下に有効面積100 cm²以上の換気口を設けてください。
- パイプシャフト内設置は、自治体によって独自の規定をしている場合があるため確認してください。

追いだき配管工事

注意

- 循環アダプターは必ず当社指定のもの(AD-G381シリーズ)を使用する
指定以外のものを使用すると、お湯はり時にお湯があふれたり、湯量変動の原因となります。
- 浴そうの階上設置でユニットバスを使用する場合、
防水パン式のユニットバスを使用する
やむを得ずハーフ式ユニットバスを使用する場合は、
循環アダプターからの水漏れ対策を必ず行う。



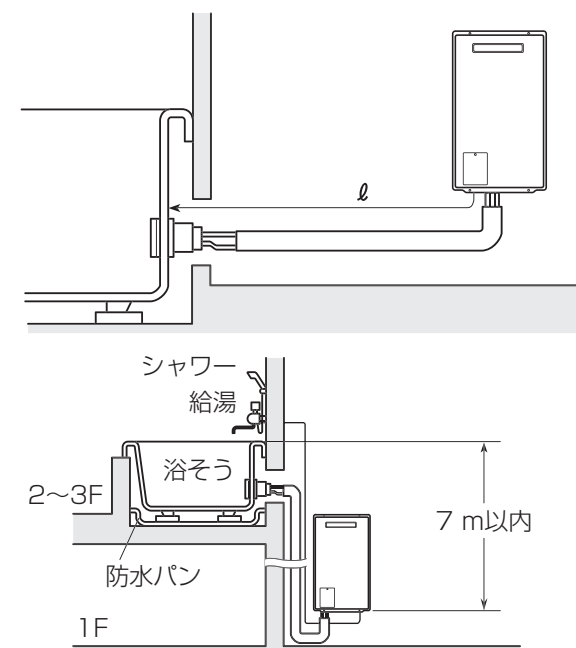
〈機器と浴そうの位置関係〉

追いだき配管はツインチューブ(外径φ12.7)または1/2の銅管または樹脂管(φ10)を使用してください。

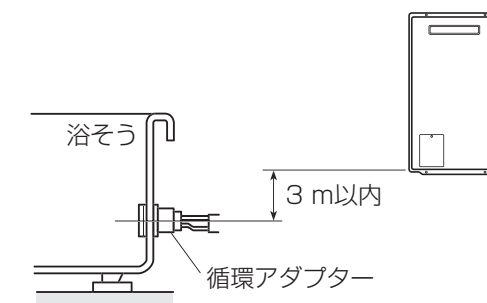
①追いだき配管の延長距離

配管の種類	ℓ	エルボの数(片道)
ツインチューブ φ12.7	15 m以内	10コ以内
1/2銅管		
樹脂管 φ10	15 m以内	3コ以内

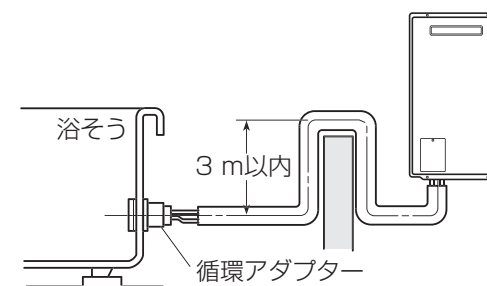
②機器が浴そうより低いとき
機器下端と浴そうのあふれ縁間、
7 m以内



③機器が浴そうより高いとき
機器下端と循環アダプター中心間、
3 m以内



④機器と浴そうがほぼ水平で、途中に障害物がある場合

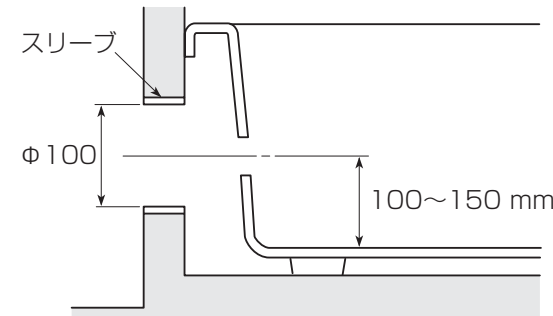


追いだき配管工事

〈追いだき配管〉

(1)スリーブ工事

- 基礎のコンクリート打ちの前にφ100以上のスリーブを浴そうの穴位置と同じところに入れておいてください。

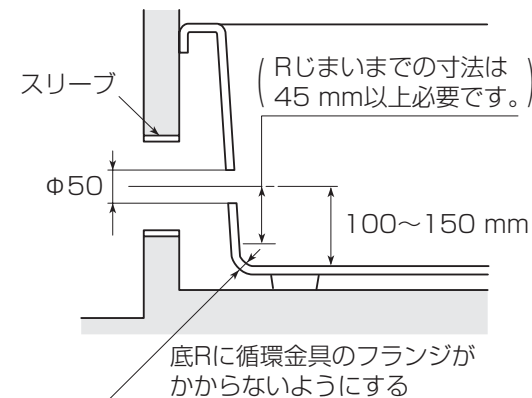


(2)浴そう穴あけ工事

- 浴そうの底部から約100~150 mmの位置(Rにかからないように)にφ50 mmの穴を1か所あけてください。

〔お知らせ〕

右記の寸法を超えた位置に穴をあけると、お湯があふれる場合があります。



ツインチューブを使用する場合

⚠注意

■ツインホース使用時は、次の内容を守る

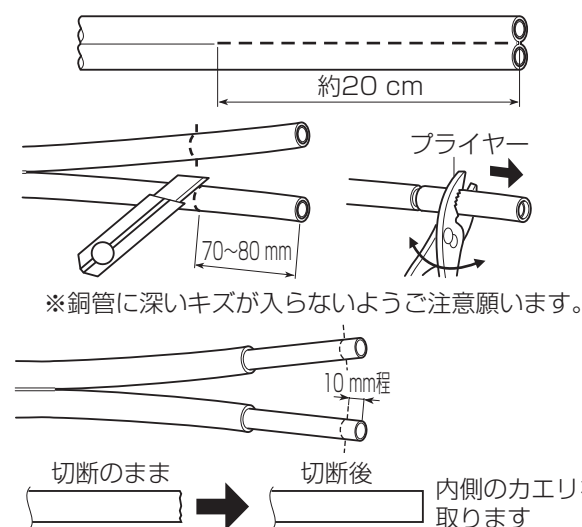
- 必ず当社指定のものを使用する
- 戸建以外(集合住宅など)では使用しない
- 配管延長距離は、15 m以内とする
- 最小曲げ半径はR50 mm以上とする
- 点検できない隠ぺい部への設置や、土中埋設はしない
- 詳しくはツインホースに同梱の説明書を読む

水漏れした場合、天井・壁面などが破損する原因となります。

(3)-1 ツインチューブの前準備

①先端を2つ割りにする。

ツインチューブの表と裏にそれぞれ中心にそってカッターナイフで切り込みを入れると手で軽く分かります。



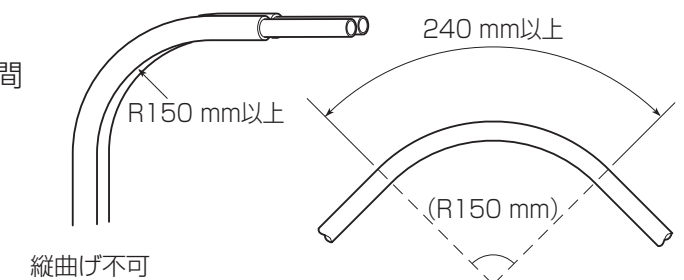
②被覆を70~80 mm取り外す。

ツインチューブの先端から70~80 mmのところにカッターナイフで円周方向に切り込みを入れブライヤー等で丁寧に回転させながら被覆を引き抜きます。

③銅管の切り口が揃うように、パイプカッターで10 mm程切断する。

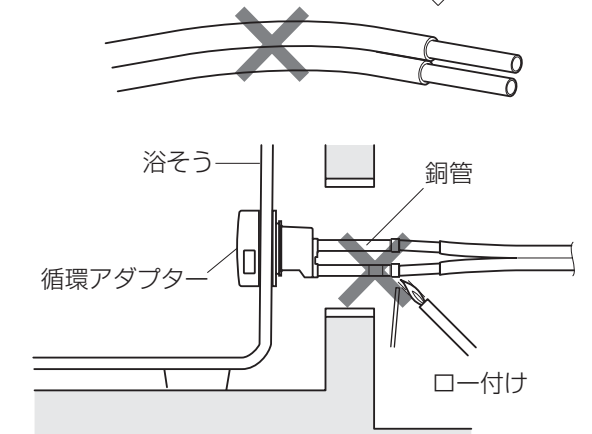
(3)-2 ツインチューブの曲げ

- ツインチューブをヒザ等に当てて240 mm以上の間を均等に徐々に曲げていきます。急に曲げると座屈しますのでご注意ください。
- ※縦曲げはしないでください。



(3)-3 ツインチューブの循環アダプター接続工事

- 循環アダプターを浴そうに取り付けたまま、銅管をロー付けすると、浴そう(特にポリ浴そう)やパッキンなどをいためることになりますので、必ず接続ボディーと銅管を接続したあとで、浴そうに取り付けるようにしてください。



(3)-4 循環アダプター取付工事

〔お願い〕

循環アダプターの接続ボディーと銅管をロー付けする場合、ロー付けを先に行ってください。

- 循環アダプターに同梱されている工事説明書に従って取り付けてください。

①循環アダプターの吸込口キャップ、浴そうフィルター、固定ねじを外してください。(一旦分解します。)

- 浴そうフィルターは、吸込口キャップを固定して浴そうフィルターを左回転させると外れます。

②保持棒を接続ボディーにねじ込み(左ねじ)、取付穴に引っ掛ける。

③浴そうの内側から、保持棒を引き寄せ固定ねじをねじ込む。

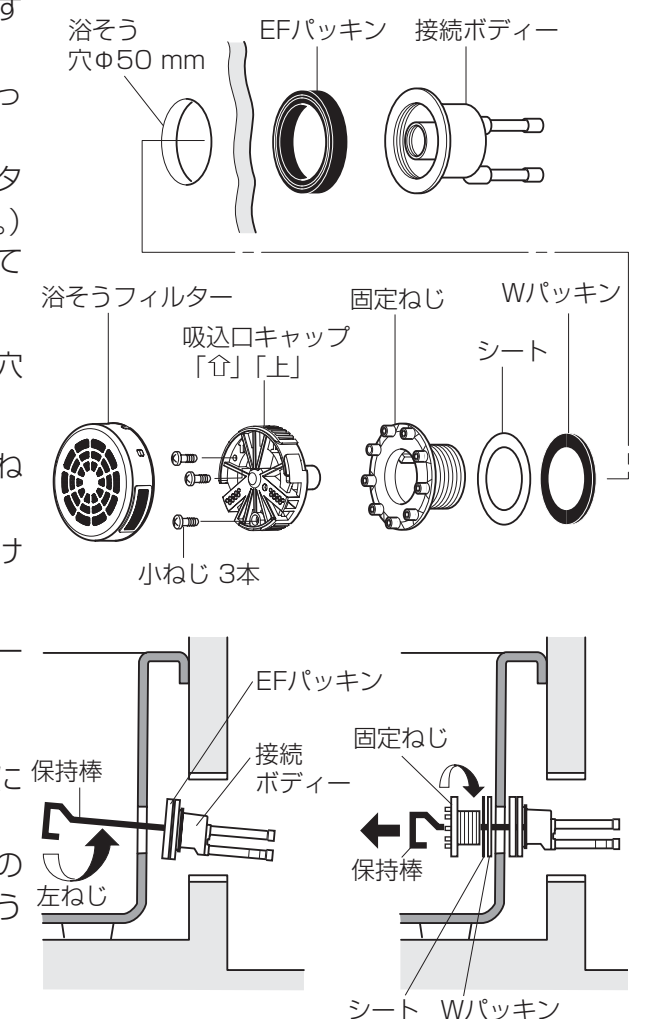
※EFパッキン・Wパッキン・シートも必ず取り付ける。

④保持棒を外し、吸込口キャップ・浴そうフィルターを取り付ける。

〔お願い〕

吸込口キャップは「上」または「上」が最も上方になる位置で固定ねじにねじ止めしてください。

※ロー付け接続、フレキナット接続の場合の接続部の形状は設置条件、工事方法によって選択できるように10種類揃えております。

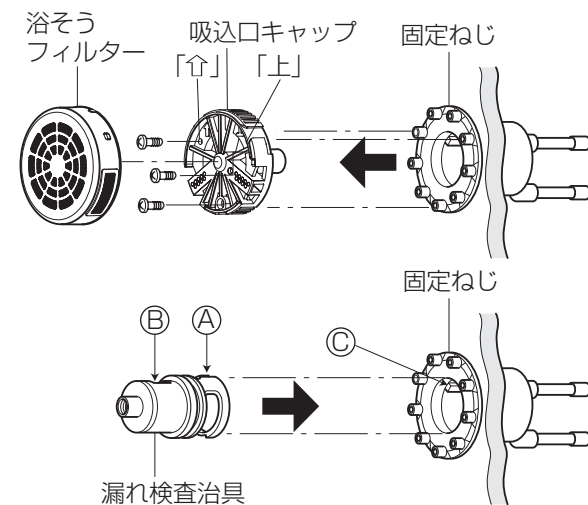


追いだき配管工事

(3)-5 気密試験

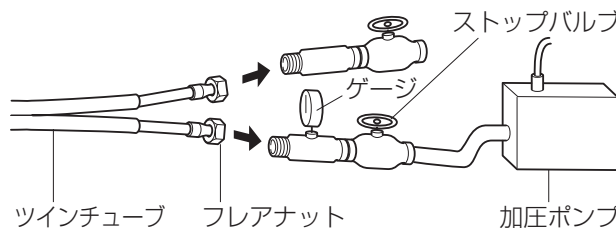
●気密試験は必ず専用の漏れ検査治具(別売品)をご使用ください。

- ①循環アダプターの吸込口キャップ及び浴そうフィルターを外します。
- ②漏れ検査治具の切り欠き①と、循環アダプターの凸部②を合わせ、しっかりと奥まで差し込み、右に約90°回して固定します。
差し込むとき、③の位置を覚えておくと、検査後抜き取るときに便利です。



- ③加圧ポンプで圧力をかけます。
水圧200 kPa(2.0 kgf/cm²) ……5分間
※200 kPa(2.0 kgf/cm²) より高い圧力を加えないでください。

- ④試験後、吸込口キャップと浴そうフィルターを組みつけてください。吸込口キャップの「上」または「上」というマークは必ず上側にしてください。

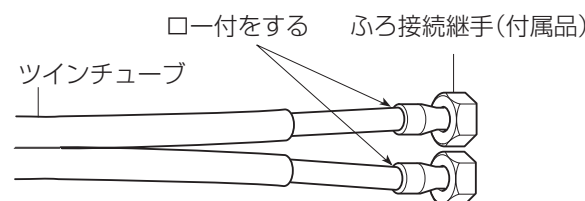


検査の一般注意事項

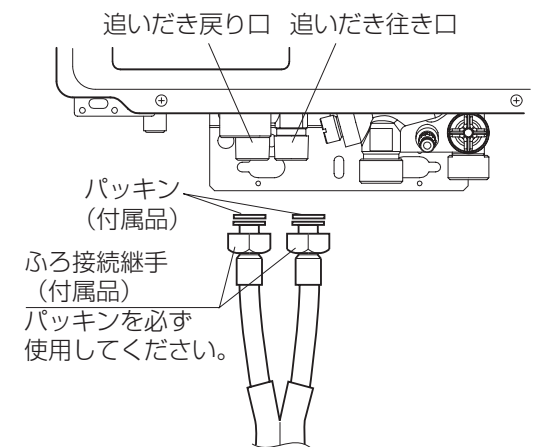
- ①試験方法は、水圧試験と目視触感によって検査してください。
- ②検査は保温工事の前に行ってください。
- ③試験の対象となる配管は、事前に「管内洗浄」「空気抜き」をかねた通水試験を実施してください。
- ④水圧試験機、試験用具にセットした後、予備検査(圧力をかける)を行い、管内の空気を確実にパージしてください。
- ⑤検査に使用する圧力計は、検査圧力に見合ったものとし、十分信頼できる計器を使用してください。

(3)-6 ツインチューブの機器接続工事

- ①ツインチューブとふろ接続継手(φ12.7銅管用溶ダー継手)をロー付けする前に、必ず、ツインチューブの長さを調節してください。
- ②ふろ行き側とふろ戻り側、各々の銅管を曲げてふろ接続継手を機器に仮止めして、各々の長さが適切であるか確認してください。
※銅管の長さが長すぎたり、短いと機器本体に無理な力がかかり機器本体を損傷したりふろ接続継手が破れて外れたりする恐れがあります。
- ③ふろ接続継手を機器から外しツインチューブとふろ接続継手をロー付けしてください。



- ④パッキンを必ず取り付けて、ふろ接続継手と機器とを接続してください。



CD管付樹脂管を使用する場合

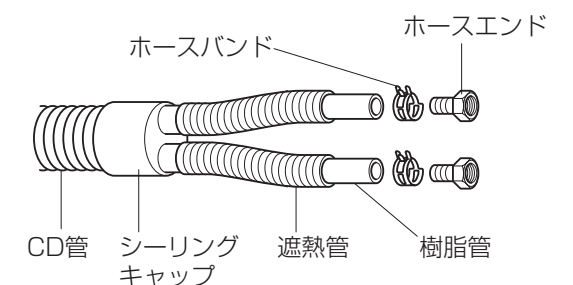
⚠ 注意

■CD管付樹脂管使用時は、次の内容を守る

- 配管部材は当社指定の配管部材を使用する
- 地域により水道条例の制限を受ける場合があるので確認する
- 曲げ角度は最大90°、水平部の曲げ半径はR450 mm以上とする
- CD管末端部において樹脂管が露出する場合はシーリングキャップと遮熱管で保護(養生)する
- 詳しくはCD管付樹脂管の施工マニュアルを読む
- 水平部の曲げ数は3カ所までとする
- 点検できない隠ぺい部で接続しない
- 配管施工には適正工具を使用する

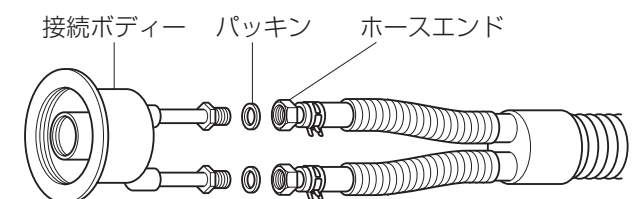
(3)-1 CD管付樹脂管の前準備

- ①CD管付樹脂管の切断
機器と循環アダプターを接続する適切な長さに切断します。
- ②ホースエンドを取り付ける
シーリングキャップ・遮熱管・ホースバンドを樹脂管に通した後、ホースエンドを樹脂管に差し込み、ホースバンドで固定します。



(3)-2 CD管付樹脂管の循環アダプター接続工事

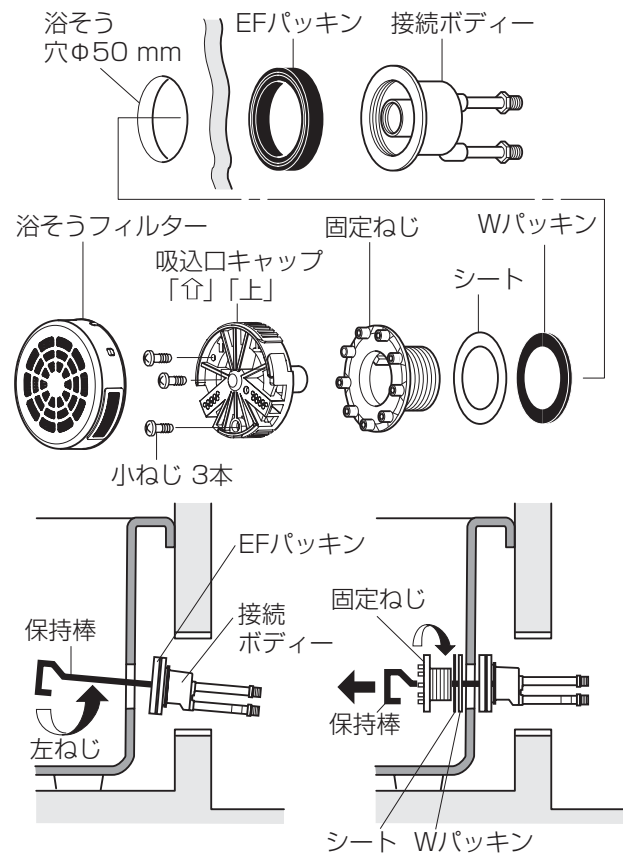
- 循環アダプターの接続ボディーにホースエンドをねじ込み固定します。
- ※パッキンを必ず取り付けて接続してください。



追いだき配管工事

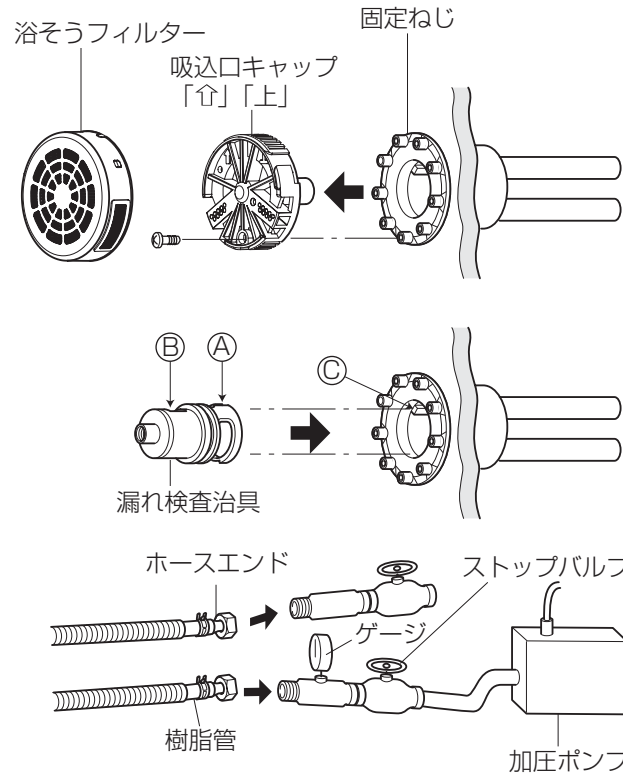
(3)-3 循環アダプター取付工事

- 〔お願い〕
- CD管付樹脂管と循環アダプターの接続を先に行ってから、バスタブに取り付けてください。
- 循環アダプターに同梱されている工事説明書に従って取り付けてください。
- ①循環アダプターの吸込口キャップ、浴そうフィルター、固定ねじを外してください。(一旦分解します。)
 - 浴そうフィルターは、吸込口キャップを固定して浴そうフィルターを左回転させると外れます。
 - ②保持棒を接続ボディーにねじ込み(左ねじ)、取付穴に引っ掛ける。
 - ③浴そうの内側から、保持棒を引き寄せ固定ねじをねじ込む。
- ※EFパッキン・Wパッキン・シートも必ず取り付け。
- ④保持棒を外し、吸込口キャップ・浴そうフィルターを取り付ける。
- 〔お願い〕
- 吸込口キャップは「上」または「上」が最も上方になる位置で固定ねじにねじ止めしてください。
- ※循環アダプターは、フレアナット接続タイプを使用してください。



(3)-4 気密試験

- 気密試験は必ず専用の漏れ検査治具(別売品)をご使用ください。
- ①循環アダプターの吸込口キャップ及びフィルターを外します。
 - ②漏れ検査治具の切り欠き(A)と、ふろ接続アダプターの凸部(B)を合わせ、しっかりと奥まで差し込み、右に約90°回して固定します。
差し込むとき、(C)位置を覚えておくと、検査後抜き取るときに便利です。
 - ③加圧ポンプで圧力をかけます。
水圧200 kPa (2.0 kgf/cm²) ……5分間
※200 kPa (2.0 kgf/cm²) より高い圧力を加えないでください
 - ④試験後、吸込口キャップとフィルターを組みつけてください。キャップの「上」というマークは必ず上側にしてください。

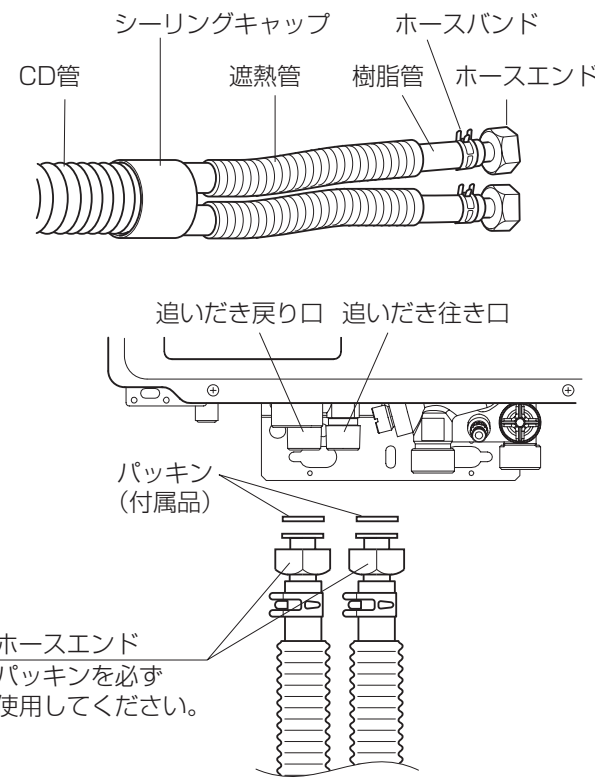


検査の一般注意事項

- ①試験方法は、水圧試験と目視触感によって検査してください。
- ②検査は保温工事の前に行ってください。
- ③試験の対象となる配管は、事前に「管内洗浄」「空気抜き」をかねた通水試験を実施してください。
- ④水圧試験機、試験用具にセットした後、予備検査(圧力をかける)を行い、管内の空気を確実にパージしてください。
- ⑤検査に使用する圧力計は、検査圧力に見合ったものとし、十分信頼できる計器を使用してください。

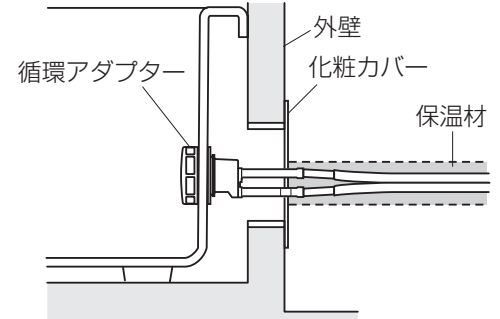
(3)-5 CD管付樹脂管の機器接続工事

- ①ふろ行き側とふろ戻り側、各々のCD管付樹脂管を曲げてホースエンドを機器に仮止めして、各々の長さが適切であるか確認してください。
※CD管付樹脂管の長さが長すぎたり、短いと機器本体に無理な力がかかり機器本体を損傷したり、CD管付樹脂管の曲げ箇所がつぶれる恐れがあります。
- ②パッキンを必ず取り付けて、ホースエンドと機器とを接続してください。



(4)保温および補修

- ①外壁の穴をモルタル等でコーキングするか化粧カバーにてシールしてください。
- ②ツインチューブ・CD管付樹脂管は止めバンドやサドルパッドで支持する。



給水配管・給湯配管・排水処理・ガス配管工事

給水配管工事等は、各市町村の水道条例に従って施工してください。

〈給水配管工事〉

- ①この機器は点火するために、[機器の作動水圧] + [給湯配管の損失水頭] (通水時) 以上の給水圧力を確保する必要があります。
必要給水圧 (機器入口圧) = 作動水圧 (15 kPa : 0.15 kgf/cm²) + 損失水頭 + α (余裕)
●損失水頭は配管径によって異なります。
●この機器の最低必要水圧はお湯はりするために最低 70 kPa (0.7 kgf/cm²) 以上の水圧が必要です。
●2階～3階へ給湯する場合は、機器入口で 170 kPa (1.7 kgf/cm²) 以上 (通水時) の給水圧力が必要です。
(詳しくは、必要水圧の計算をし、その値より大きな給水圧力を確保してください。)
- 給水圧が 500 kPa (5 kgf/cm²) 以上の場合は、通水音を低くするため機器手前に 200 kPa (2 kgf/cm²) の減圧弁を取り付けてください。
- ②機器の給水配管に逆流防止装置 (逆止弁など) を取り付け、給湯側の水が逆流しないようにしてください。
- ③給水管は内部の砂、ゴミ、ハンダクズなどを洗い流してから機器に接続してください。
- ④給水管にも必ず保温材で被覆してください。
- ⑤給水管の内部に空気がたまっていると機器が正常に働きませんので、通水テストを行い、水量が安定し空気が十分に出てしまったことを確認してから機器に接続してください。

〈給湯配管工事〉

- ①シャワーセットは、このガス給湯機付ふろがまの機能を十分発揮させるために、圧力損失の少ないものを使用してください。
- ②給水口と給湯口との接続を間違わないよう接続してください。
- ③給湯管の保温
湯温低下予防、凍結予防のため必ず保温工事を行ってください。
- ④給湯管の水抜きを容易にするために、給湯管を先上がり勾配 1/100～1/200 程度をつけます。
- ⑤給湯管内の空気だまりについて
給湯管内にはエアポケットができないように配管してください。
(逆U字配管はエアポケットができますので避けてください。)
給湯配管は取り付けた機器とだいたい同じ高さで、できるだけ平面に配管し、階下へは配管しないようにしてください。
1. 給湯栓を閉めてから給湯側のメインバーナーが消えるまで、時間がかかります。
2. 給湯を使っていないのに、他の水道栓を開けると、給湯側のバーナーに瞬間的に火がつくなどの現象が生じます。
※給水圧が高く、湯温調節を高温にしたときほどハッキリあらわれます。
- ⑥給湯栓が 2 か所以上の場合
できるだけ配管途中の抵抗を等しくし、給湯栓の高さもそろえてください。
- ⑦給湯配管材料
給湯配管材料はりん脱酸銅管をご使用ください。
- ⑧給湯接続口のの水抜き栓 (過圧防止安全装置兼用) から少量の水が出ますので、ビニルホースなどで排水処理を行ってください。

〈排水処理工事〉

- 排水処理工事は排水管まで必ず確実に排水できるよう導いてください。
ポリタンク等により排水を受けることは、絶対におやめください。
- 排水管は必ず下りこう配を付け、排水管内の凍結を防止してください。

※ふろ配管が凍結した状態で、ふろ自動運転を行うと、オーバーフローからお湯が出ることがあります。

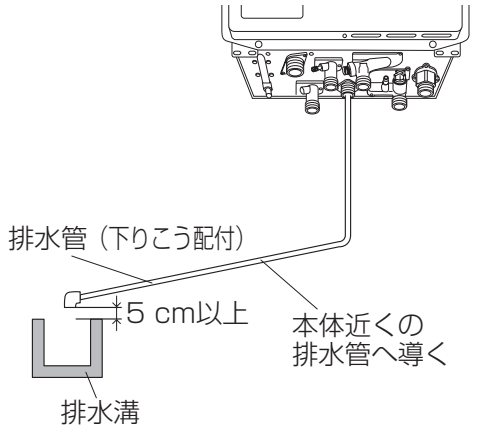
※給水圧が 100 kPa {1 kgf/cm²} 以下でふろ自動運転を行うと、ふろ配管条件によってはオーバーフローからお湯が出ることがあります。

〔お願い〕

パイプシャフト内へ設置する場合は、専用の排水管工事を行ってください。

〈ガス配管工事〉

- ①ガス接続ユニオンを必ず取り付けてください。
- ②配管材料は配管用鋼管 (JIS のSGP管) をご使用ください
- ③ガス栓を必ず取り付けてください。



電気工事

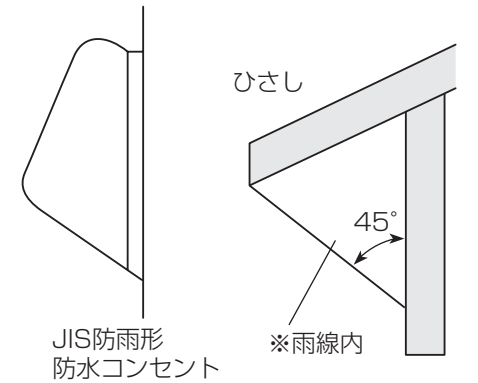
〈電源工事・アース工事〉

- この機器には AC 100 V が必要です。(電源コード 2 m 付)
- 電気配線については、電力会社の指定工事店にご相談ください。
- できるだけ JIS 防雨形防水コンセントを設置してください。
※ JIS 防雨形防水コンセント以外の場合は、コンセントに雨がからぬように雨線内 (※) に設置するか、外箱を設ける等の有効な処置をしてください。

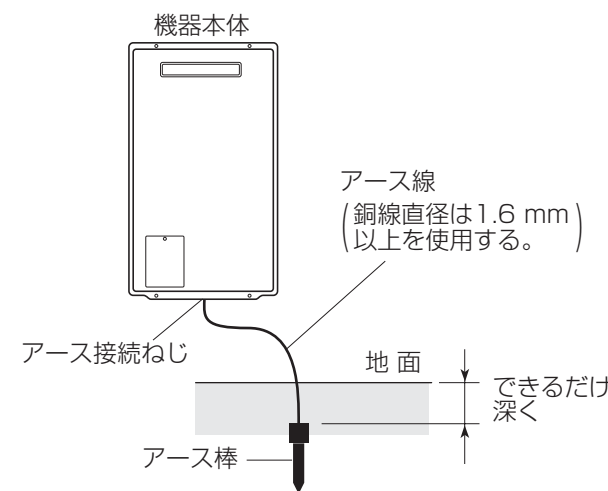
〔お願い〕

コンセントとガス管および水道管とは 100 mm 以上離してください。

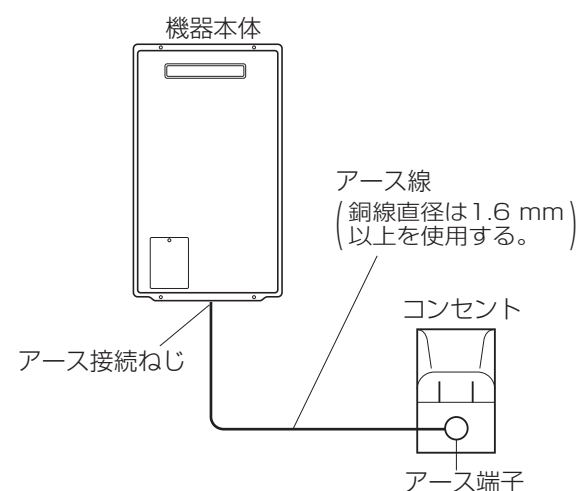
- 万一の感電事故防止のため、右図のいずれかの方法で必ずアースしてください。
- コンセントにアース端子が付いていない場合は、別途、電気設備技術基準に基づき、必ず電気工事士による D 種接地工事を行ってください。
- アース線の接続端子は本体の底面に (⊥) 表示で示してあります。
- ガス管や水道管、または他の製品のアース回路には接続しないでください。(法令などで禁止されています。)



●アース棒を使用される場合



●コンセントにアース端子が付いている場合



通信ユニットの取付工事

■通信ユニット設置時のお願い

- 機器設置時には、アンテナに十分注意して取り付けてください。
- アンテナはいっぱい伸ばしてください。
- アンテナが金属に当たっていないことを確認してください。
- 機器後面下部に障害物などがある場合、通信ユニットを壁面などに取り付けることができます。この時排気口の近くなど温度が高い所は避けてください。また、ケーブル線の延長はできません。

機器側面に取り付ける場合

①本体ケース右側面のねじ1本を外す

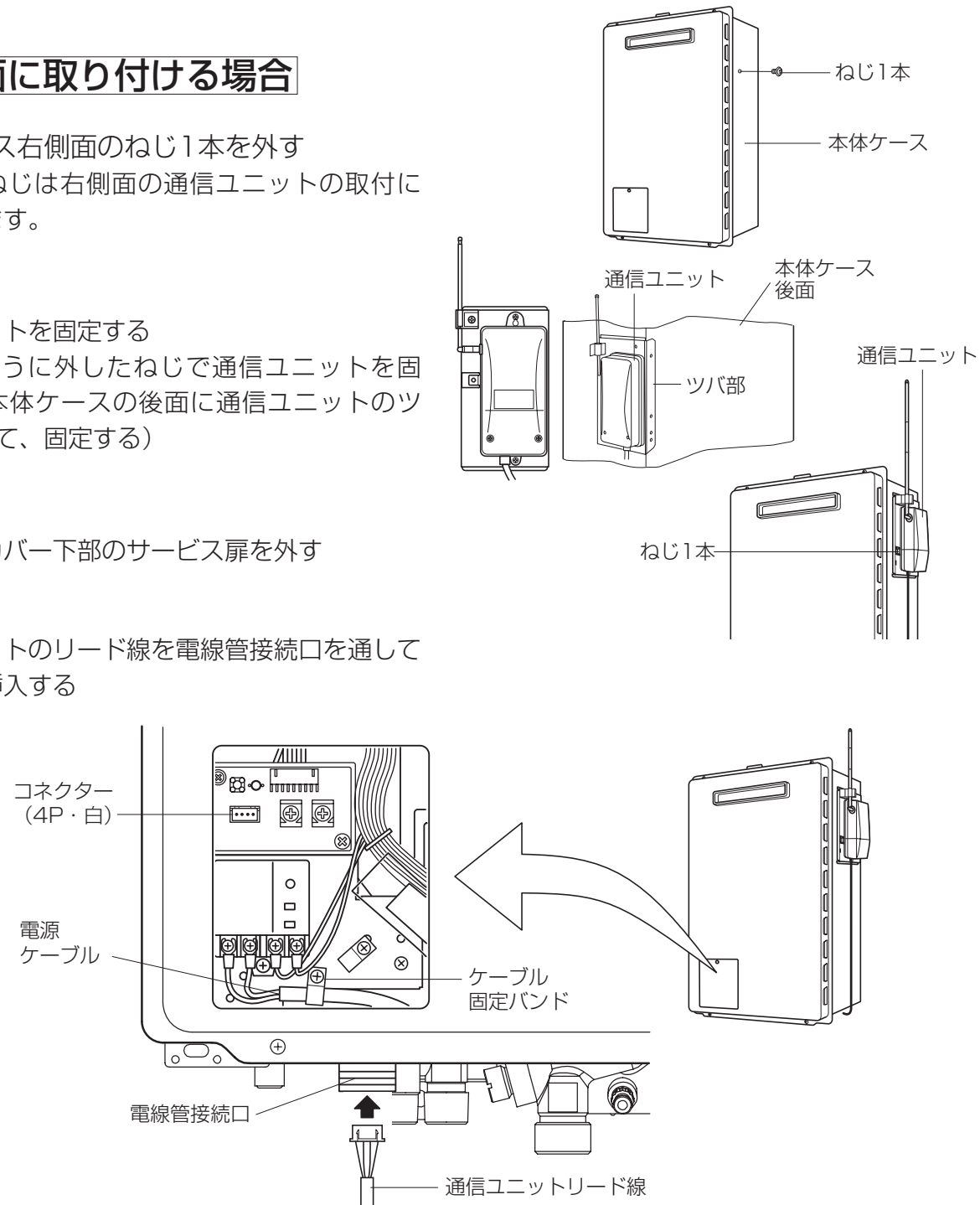
- ※外したねじは右側面の通信ユニットの取付に使用します。

②通信ユニットを固定する

- 右図のように外したねじで通信ユニットを固定する(本体ケースの後面に通信ユニットのツバ部を当て、固定する)

③フロントカバー下部のサービス扉を外す

④通信ユニットのリード線を電線管接続口を通して機器内に挿入する



⑤通信ユニットのリード線のコネクターを電装ユニットのコードレス用コネクターに挿入する

⑥リード線をケーブル固定バンドで固定する

- 機器内の通信ユニットのリード線はたるみがないようにして、ケーブル固定バンド及びバインド線で固定する
(余ったケーブルはバインド線で束ねてください。)

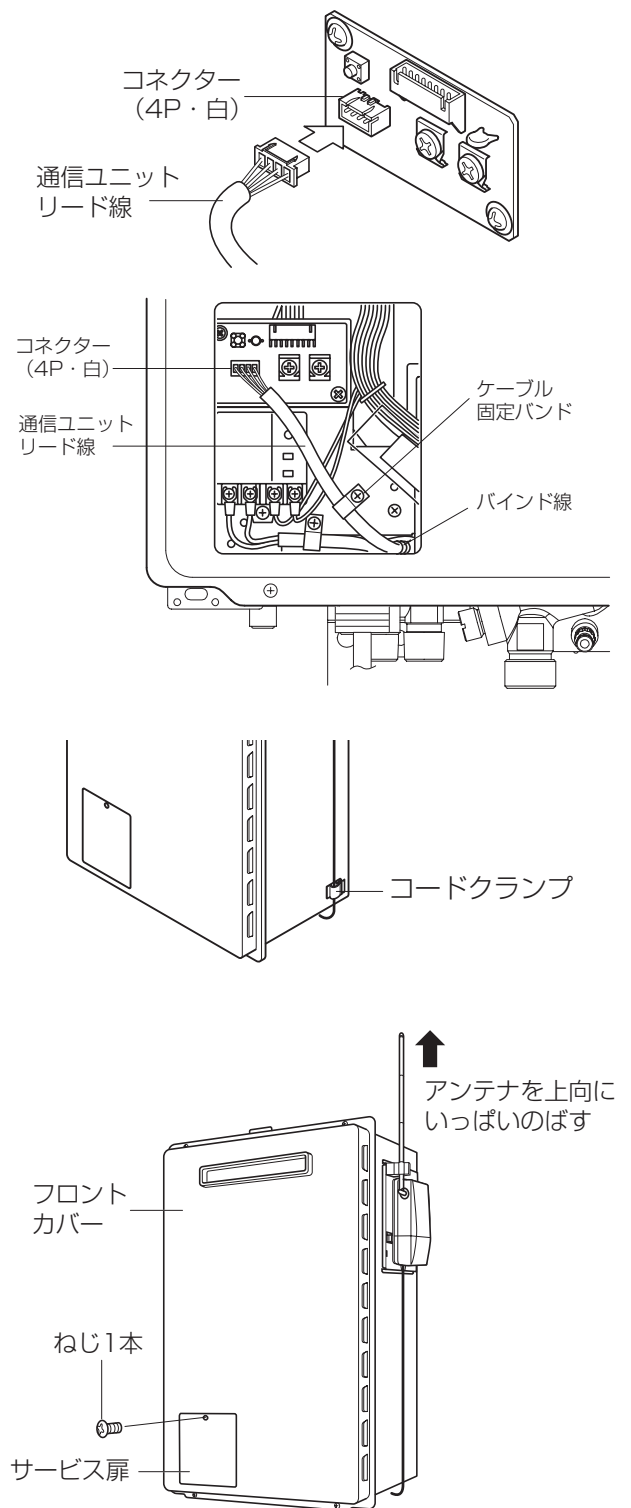
⑦本体ケース側面の通信ユニットのリード線をコードクランプにて固定する

- コードクランプの裏面の紙をはがし、本体に固定する。(側面と底面の2か所)

⑧フロントカバー下部のサービス扉を取り付ける (ねじ1本)

⑨通信ユニットのアンテナを上方いっぱい伸ばす

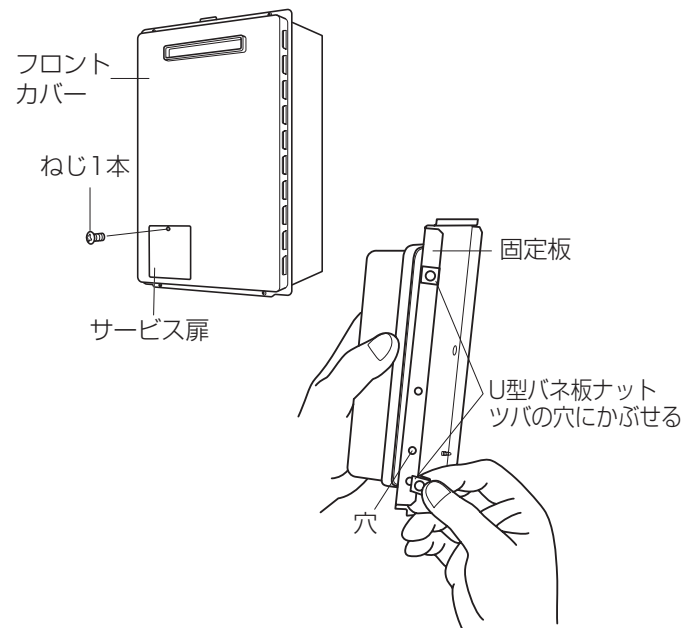
- この時、アンテナが金属部に当たらないこと。
- アンテナを伸ばさない場合、通信ができません。(エラーコード「760」表示)



通信ユニットの取付工事

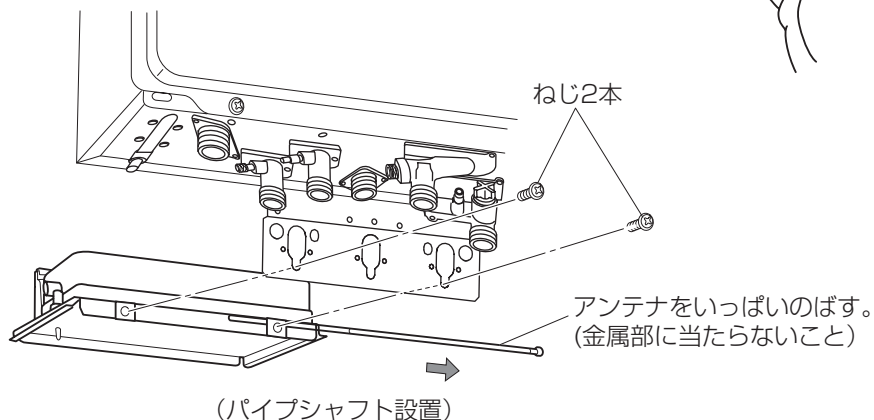
パイプシャフト設置の場合

- ①フロントカバー下部のサービス扉を外す
(ねじ1本)



- ②同梱のU型バネ板ナットを通信ユニット固定板のツバ部につける

- ③通信ユニットを機器本体下側に固定する
●下図のように通信ユニットをねじ2本で機器取付板に固定する



- ④機器側面に取り付ける場合の④～⑧に従って、通信ユニットのリード線接続工事を行う

- ⑤通信ユニットのアンテナを伸ばす

- この時、アンテナが金属部に当たらないこと。
- アンテナを伸ばさない場合、通信ができないことがあります。(エラーコード「760」表示)

リモコン用取付板の取付工事

お願い

- 設置工事後は、この説明書をお客様に渡す
- PYプラグ用の下穴は使用するPYプラグに合わせる
- リモコン取付工事に必要のないねじは絶対に締め付けたり、ゆるめたりしない
- 次の法、基準に従って設置する
 - 日本ガス機器検査協会発行の「ガス機器の設置基準及び実務指針」
- 全周が鉄板など金属で囲まれた場所には設置しない
- 壁が金属の場所および強い電磁界を発生する場所には設置しない
- コード接続式リモコンとは併用しない

リモコン用取付板の取付工事

浴室リモコン側

(1)取付場所を選定する

- お客様と相談して使いやすい場所を選んでください。
- 液晶表示部が見やすい場所を選んでください。
- 周囲の壁が金属でない場所を選んでください。
- リモコンに温水・湿気・水が直接かかりにくい場所をえらんでください。
- 硫化水素、アンモニア等の多いところでは使用しないでください。
- 取付板を取り付ける前に浴室リモコンで動作ができることを確認してください。

その場合

- 浴室リモコンに電池が入っていること。
- 電池の取付は⊕⊖を確かめて行ってください。(詳しくは電池ふたの表示参照)
- 浴室リモコンは取付板に挿入し、リモコン固定ねじで固定していること。
- 本体の電源プラグがコンセントに差し込まれていること。
- ※電池フタに付いているOリングのグリスは拭き取らないでください。
- 壁面に凹凸のない場所を選んでください。

(2)壁にPYプラグ用の穴をあける(一般浴そうの場合)

- φ6.5、深さ20 mmの穴を壁に対して直角にあけてください。
- 取付寸法を間違わないように穴をあけてください。

(3)補強板を壁に固定する(ユニットバスの場合)

- ユニットバスを設置するとき、搬入の前にリモコン補強板をユニットバスの裏側に接着剤などで取り付けてください。

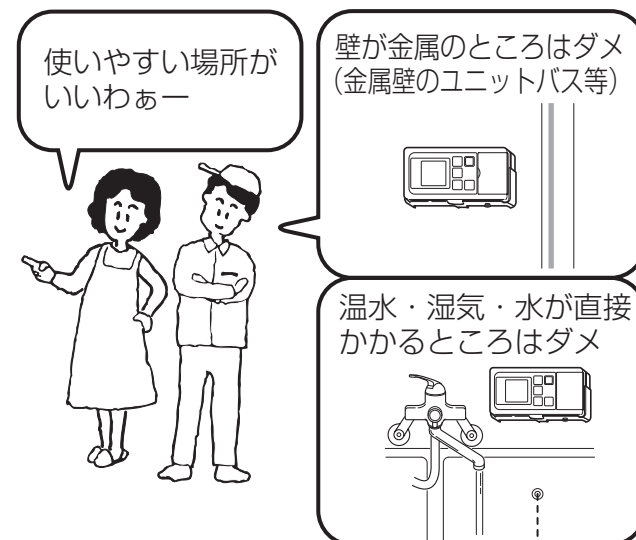
新築の場合

(4)取付板を壁に固定する

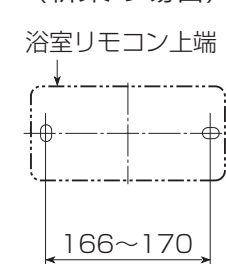
- ①取り付ける壁面を乾いた布などでよく拭いて、水気、油分を拭き取ってください。
- ②裏面のパッキンに貼付けている紙をはがしてください。
- ③取付板が傾かないよう押し付けてください。

【お知らせ】

- 取付板を壁面に固定すると簡単に取外しができません。無理して外すと壁または取付板が破損することがあります。



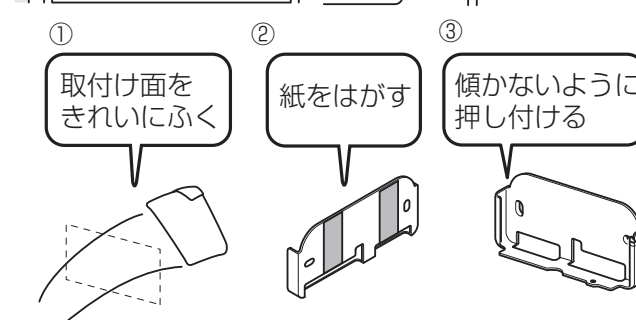
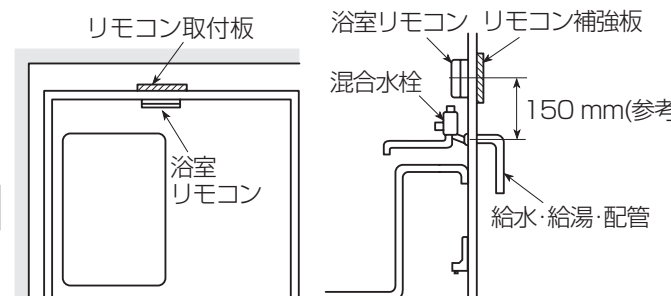
〈新築の場合〉



〈買替の場合〉[単位:mm]



下穴をあける PYプラグを(穴径φ6.5 mm)打ち込む 余分を切断する 木ねじで取付ける



リモコン用取付板の取付工事

浴室リモコン側

④取付板を木ねじで固定する

- 同梱の木ねじ（2本）で固定します。
- 一般浴そうの場合、右図のようにP Yプラグの穴位置が合っていることを確認し、木ねじで固定します。

買替一般浴そうの場合

(4)-①浴室内のリモコン用穴はコーキング材にて処理をする

〔お願い〕

- 壁面よりコーキング材が出ていないこと（取付板が壁面に密着できません。）

②パッキンに貼り付けてある紙をはがす

③取付板が傾かないよう押し付ける

〔お知らせ〕

- 取付板を壁面に固定すると、簡単に取り外しができません。無理して外すと壁または取付板が破損することがあります。

④取付板を木ねじで固定する

- 同梱の木ねじ（2本）で固定します。右図のようにP Yプラグの穴位置が合っていることを確認し、木ねじで固定します。

⑤外壁面の穴はコーキングまたは化粧カバーを木ねじで固定し、仕上げる

⑥化粧カバーのふたをきっちりとはめ込んで固定する

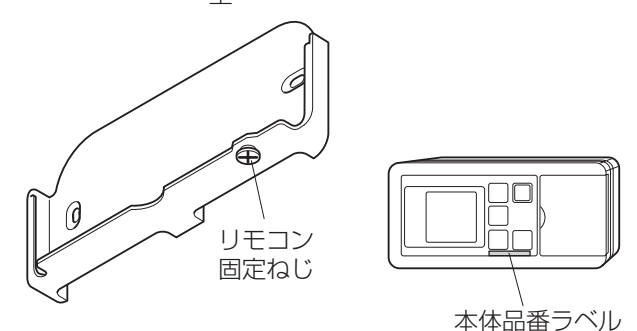
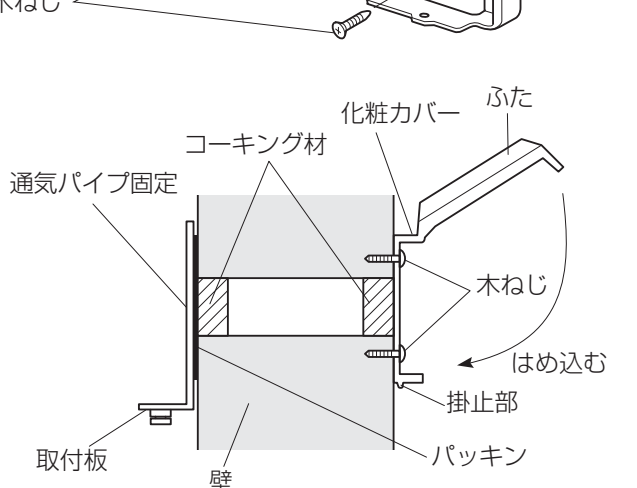
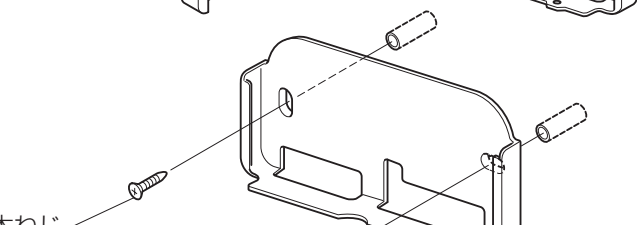
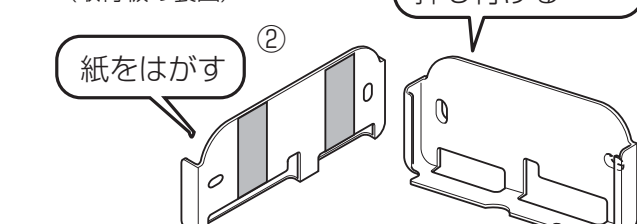
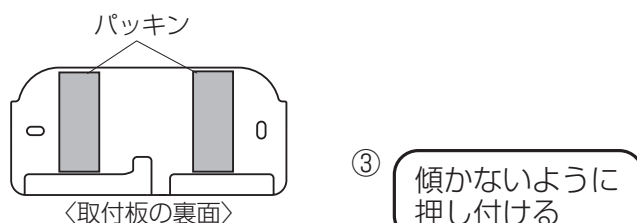
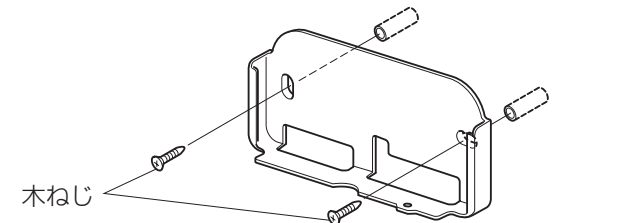
〔お願い〕

- 化粧カバーは、買替前に使用したものをご使用ください。

(5)浴室リモコンを取付板に挿入し、リモコン固定ねじで固定する

〔お願い〕

- 機器本体に同梱の本体品番ラベルの中から、本体品番と照合して右記の位置に貼り付けてください。



買替ユニットバスの場合

(4)-①浴室内のリモコン用穴の周囲(幅10 mm)をコーキング材で塗布する

〔お願い〕

- 取付板と壁面のすき間からリモコン用穴に水滴が侵入しないようにしてください。

②パッキンに貼り付けてある紙をはがす

③取付板が傾かないよう押し付ける

〔お知らせ〕

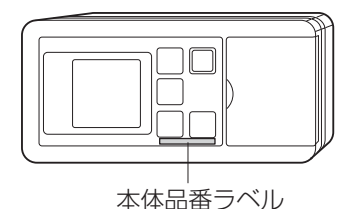
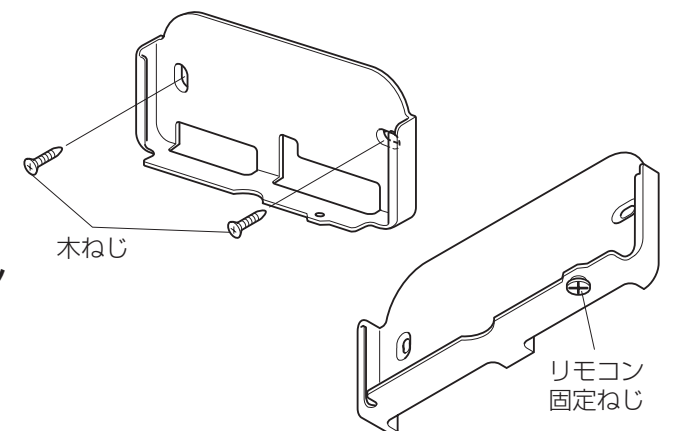
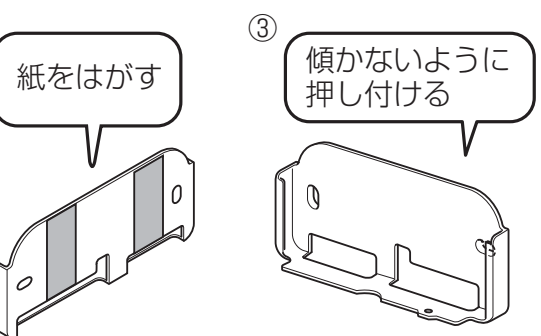
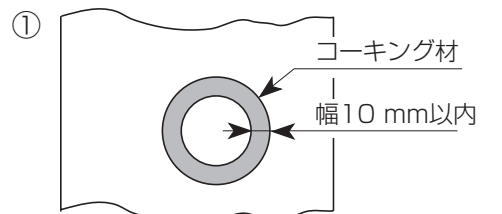
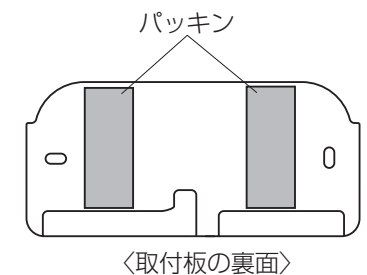
- 取付板を壁面に固定すると、簡単に取り外しができません。無理して外すと壁または取付板が破損することがあります。

④取付板を木ねじで固定する

(5)浴室リモコンを取付板に挿入し、リモコン固定ねじで固定する

〔お願い〕

- 機器本体に同梱の本体品番ラベルの中から、本体品番を照合して右記の位置に貼り付けてください。



リモコン用取付板の取付工事

台所リモコン側（ある場合）

〈壁に取付板を固定する場合〉

（1）取付場所を選定する

- お客様と相談して使いやすい場所を選んでください。
- 液晶表示部が見やすい場所を選んでください。
- ガステーブルなど燃焼器具の上以外の場所を選んでください。
- 直射日光・水しぶき・蒸気（やかんやポットの湯気など）・水滴のかからない場所を選んでください。
- 周囲の壁が金属でない場所を選んでください。
- 硫化水素、アンモニア等の多いところでは使用しないでください。
- 浴室には設置しないでください。
- 取付板を取り付ける前に台所リモコンで動作ができることを確認してください。

その場合

- 台所リモコンに電池が入っていること。
- 電池の取付は⊕⊖を確かめて行ってください。（詳しくは電池ふたの表示参照）
- 台所リモコンは取付板に挿入していること。
- 本体の電源プラグがコンセントに差し込まれていること。

（2）取付板を同梱の木ねじ（2本）で取り付ける

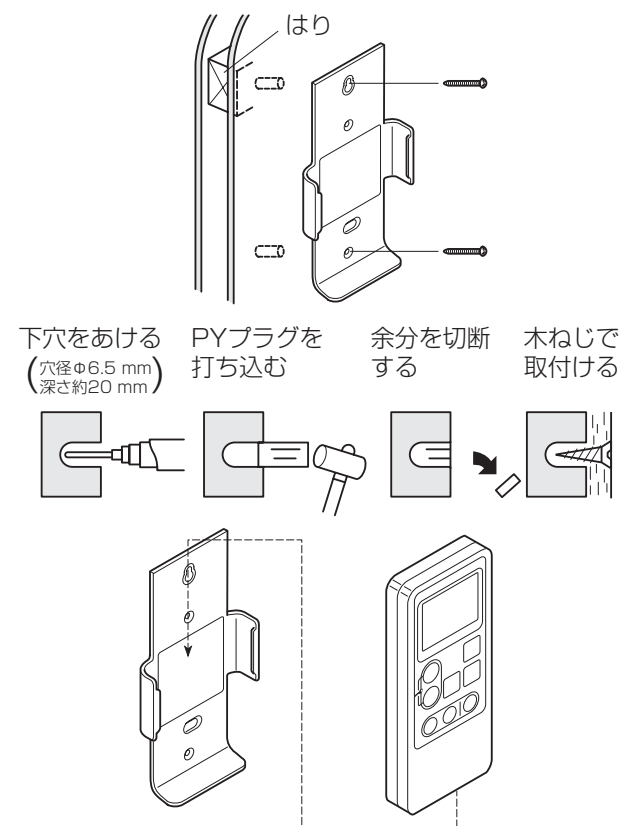
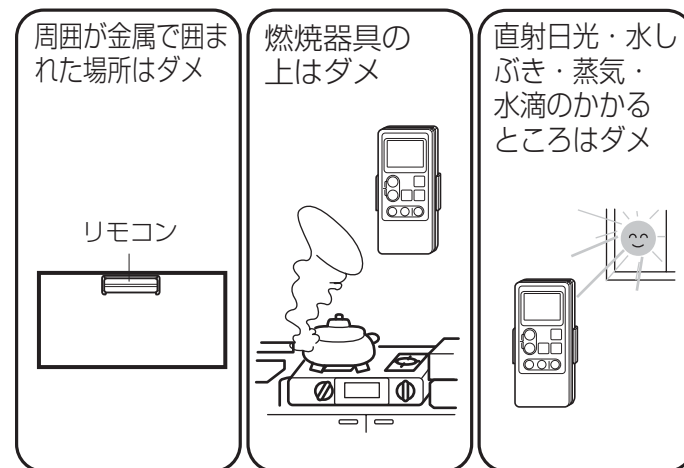
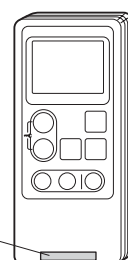
- 必ず付属の木ねじを使用してください。
- 壁が弱い状態のときは、「はり」などの補強をしてください。
- コンクリート・モルタルなどの壁のときは、P Y プラグを壁に打ち込み、木ねじで取り付けてください。

（3）取付板に台所リモコンを挿入する

〔お願い〕

- 機器本体に同梱の本体品番ラベルの中から、本体品番を照合して右記の位置に貼り付けてください。

本体品番ラベル



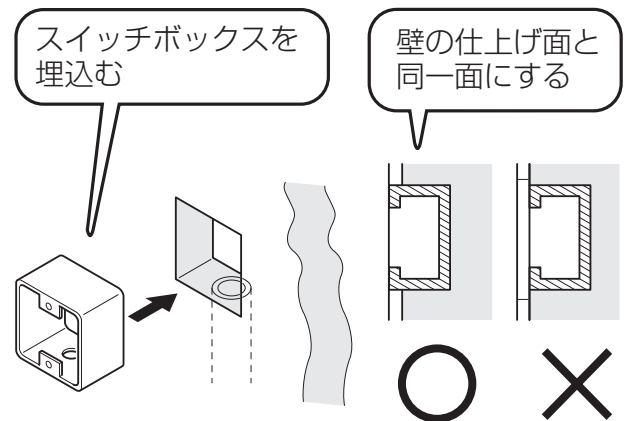
〈スイッチボックスに取付板を固定する場合〉

（1）取付場所を選定する

- 壁に取付板を固定する場合の、「取付場所を選定する」の項を参照してください。

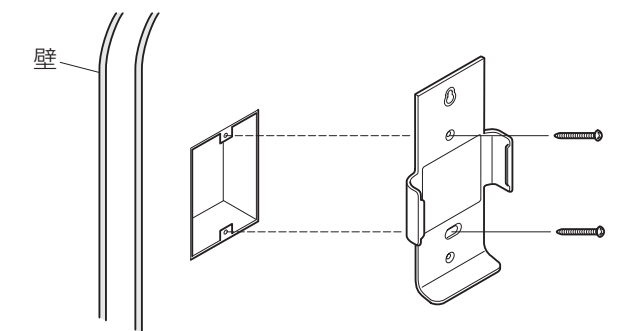
（2）スイッチボックスを埋め込む

- スイッチボックスを埋め込んでください。
- スイッチボックスは壁の仕上げ面と同一面となるようにしてください。

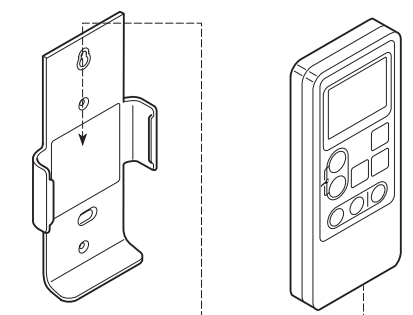


（3）取付板を壁に固定する

- 配線ボックスの取付ねじ穴に、取付板の取付穴を合わせ、同梱のねじ（2本）で固定してください。



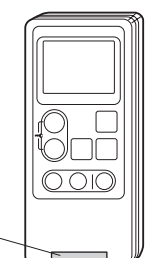
（4）取付板に台所リモコンを挿入する



〔お願い〕

- 機器本体に同梱の本体品番ラベルの中から、本体品番を照合して右記の位置に貼り付けてください。

本体品番ラベル



リモコンの取付工事

お願い

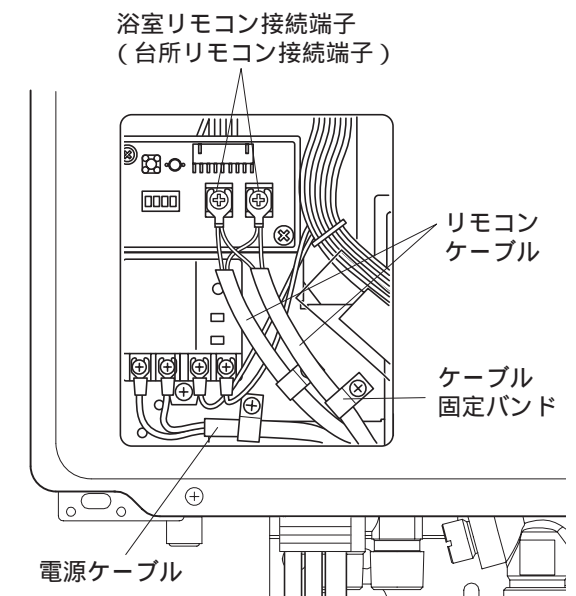
- 壁に穴をあけるとき、大きくあけすぎると固定できなくなるので、注意する
(PYプラグ用の下穴は使用されるPYプラグに合わせる)
- リモコン取付工事に必要のないねじは絶対に締め付けたり、ゆるめたりしない
- 壁の厚さが70～220 mmの範囲では、空気抜きパイプにより調整できます
壁の厚さが220～335 mmの範囲では、別売品の厚壁用空気抜きパイプを利用する
- 取付壁厚が70 mm以下の場合、壁と化粧カバーとの間に木などスペーサを入れる
- 壁に貫通穴をあけるときは、壁内部にある柱・鉄筋の位置を確認して、取付位置を決める
- ケーブル線は当社別売品の2心シールドケーブル線を使用する
- ケーブル線をコンクリートなどに埋め込む場合には、電線管などに収め、ケーブルに傷がつかないようにする
- メタルラス張りなどの壁を貫通する場合は、メタルラスと金属電線管が電氣的に接続しないようにする
- ケーブル線の総延長が20 m以内になるように配線工事を行なう
- リモコンケーブルの接続は、機器本体の端子部にする
- ケーブル線は、動かないようにケーブル固定バンドなどで固定する
- ケーブル線は直接熱の影響を受けないところに配線する
- 次の法、基準に従って設置する
 - 電気設備技術基準 ●日本ガス機器検査協会発行の「ガス機器の設置基準及び実務指針」
- パイプシャフト内に熱源機の電気配線、リモコン用配線を行なう場合には電気設備に関する技術基準に準じた防爆工事を行なう
- コードレスリモコンとは併用しない

本体側ケーブル線接続方法

(1)取付手順

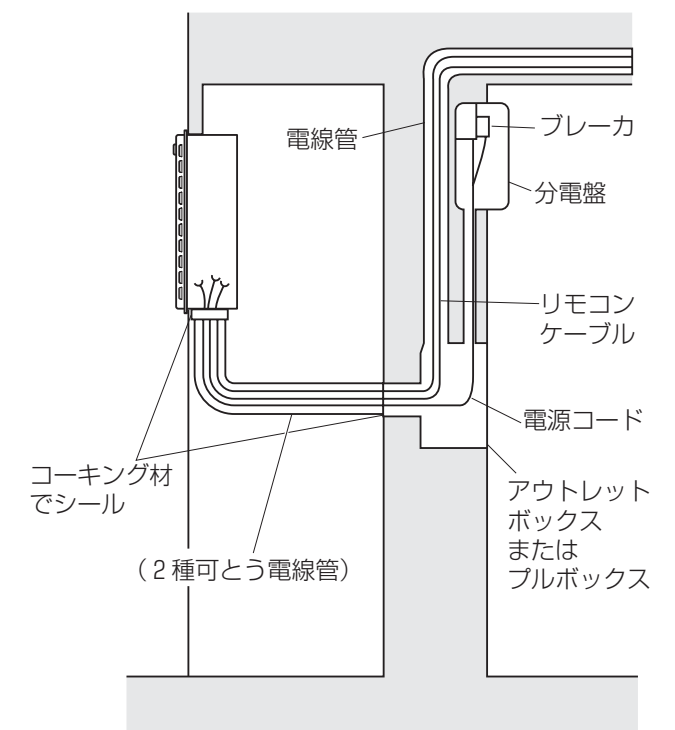
本体フロントカバーを取り外さなくても接続できます。

- ①フロントカバー下部のサービス扉を外す。
- ②機器本体下面の電線管口からケーブル線を引き込む。
- ③リモコン用ケーブル線を端子台に接続する。
〔お願い〕
 - ケーブル線はケーブル固定バンドで必ず固定してください。
 - 試運転はサービス扉を取り付ける前に行ってください。
- ④配線完了後、サービス扉を閉める。
(ねじ1本)



(2)パイプシャフト内設置のお願い

- パイプシャフト内設置では、ケーブル工事をしてください。
またパイプシャフト用電源ケーブル(別売品:AD-GW16TMP8)およびパイプシャフト用電源ケーブル(別売品:AD-GWP38-30)をお使いください。
- ケーブル配線は2種可とう電線管で保護すること。機器から壁貫通穴まで2種可とう電線管で保護してください。
- パイプシャフト内では、電源用ケーブルおよび接続電源を切断接続しないでください。
- パイプシャフト内および内壁面には、配線用ボックスを使用しないでください。ただし防爆構造を施したものはこの限りではありません。
- 電線管がパイプシャフト内壁面を貫通する部分および機器の接続部分は、コーキング材によりシールし、パイプシャフトの外との気密が保たれる措置をしてください。
- 分電盤にアース端子がない場合は、別途、D種接地工事を行ってください。
- ガス配管とケーブルとは接触しないようにしてください。



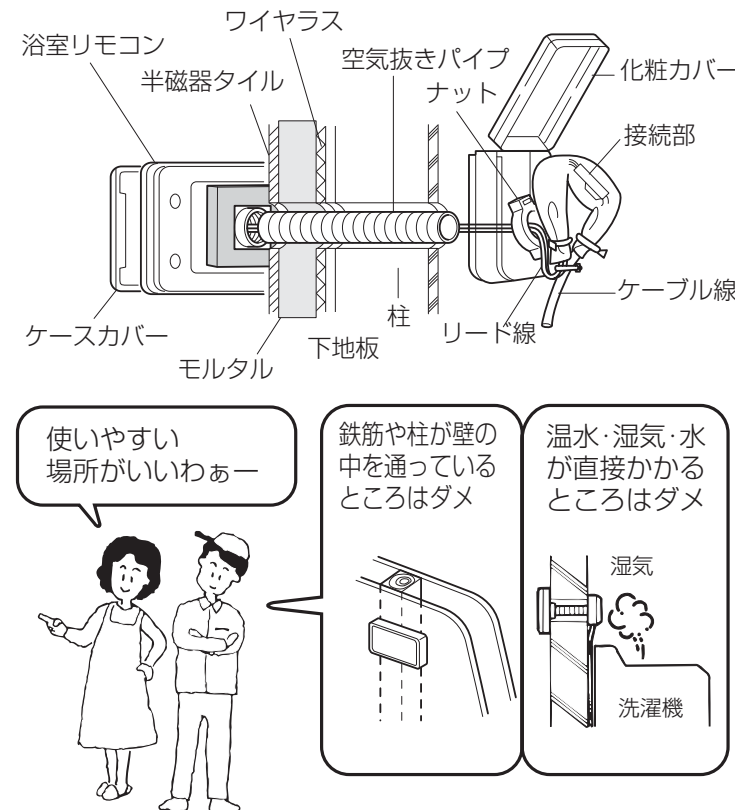
リモコンの取付工事

浴室リモコン側 ケーブル線接続方法

- はじめに
- 必ず電源プラグを抜いてから行ってください。
- ケーブル線の総延長が20 m以内になるように配線工事を行ってください。

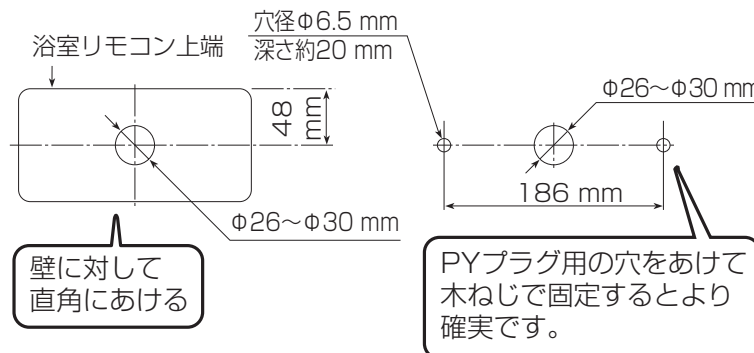
(1)浴室リモコンの取付場所

- ①お客様と相談して使いやすい場所を選んでください。
 - ②温水、湿気または水が直接かかりにくい場所を選んで、取り付けてください。
 - ③壁の内部にある柱や鉄筋に貫通穴がひっかからない場所を選んでください。
- 〔お知らせ〕
- 壁厚が70～220 mmの間で取り付けできますが、220 mm以上335 mm以内の場所は別売品の厚壁用スリーブ〈AD-3722-1型〉が必要です。



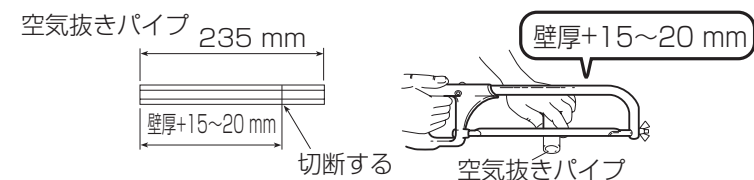
(2)壁取付穴の穴あけ

- ①φ26～φ30の空気抜きパイプの貫通穴を壁に対して直角にあけてください。
- ②浴室リモコンをより確実に取り付けるときは、PYプラグ用の穴をあけ、木ねじで固定してください。



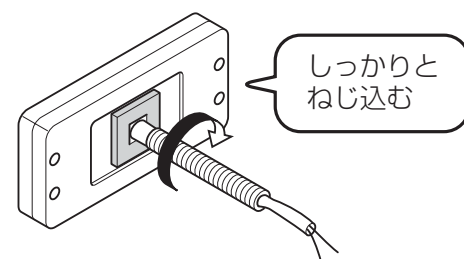
(3)空気抜きパイプを切断する

- 壁厚プラス15～20 mmの長さで切断してください。



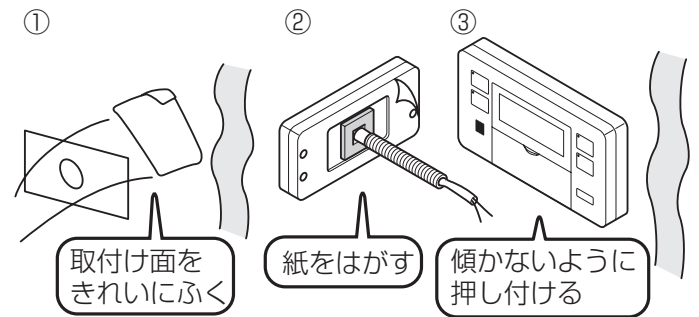
(4)浴室リモコンに空気抜きパイプを接続する

- 空気抜きパイプにリード線を通してしっかりねじ込んでください。



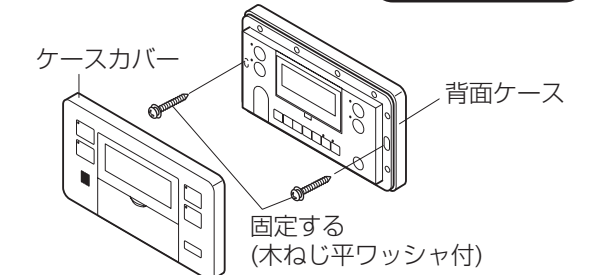
(5)浴室リモコンを壁に固定する

- ①取り付ける壁面の水気、油分をふきとる。
- ②裏面のパッキン(接着剤等)に貼付けている紙をはがす。
- ③浴室リモコンが傾かないよう押し付ける。(仮固定)



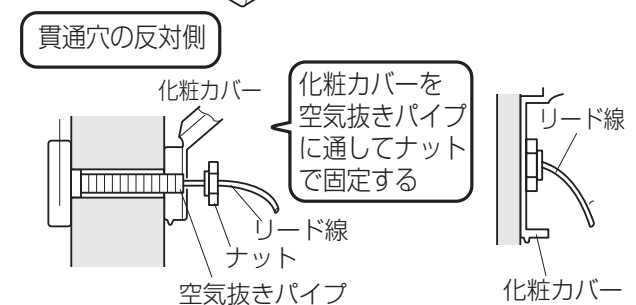
(6)浴室リモコンを木ねじで固定する場合

- リモコンの左右2か所をPYプラグの穴位置が合っていることを確認し、木ねじで固定します。



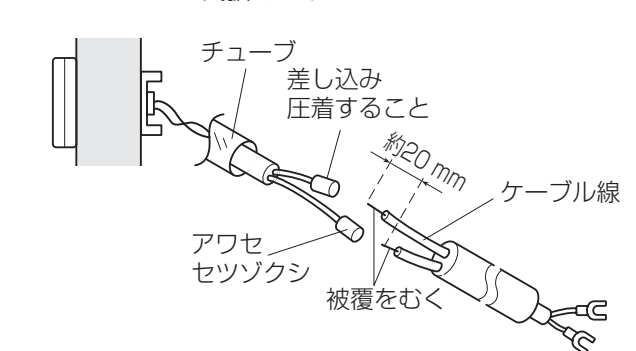
(7)化粧カバーを取り付ける

- リード線と空気抜きパイプを化粧カバーの穴に通してナットをねじ込んで固定してください。



(8)浴室リモコンとケーブル線を接続する

- チューブをリード線2本に入れます。ケーブル線の被覆をむき心線を約10 mm出し、アワセセツゾクシの中に入れて圧着してください。
- チューブで圧着部をカバーしケツソクセンでチューブを結束してください。



〔お願い〕

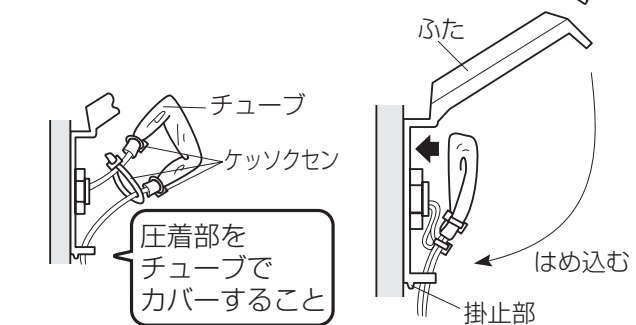
- リード線がエッジ部に触れるおそれがある場合は、ビニールテープなどで保護してください。

(9)ケーブル線の処理

- 接続部が化粧カバー内におさまるように、ケツソクセンで結束してください。

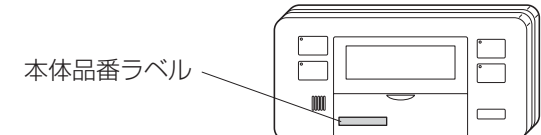
(10)化粧カバーのふたを取り付けます。

- 化粧カバーのふたはきっちりとはめ込んで固定してください。



〔お願い〕

- 機器本体に同梱の本体品番ラベルの中から、本体品番を照合して右記の位置に貼り付けてください。



リモコンの取付工事

台所リモコン側ケーブル 線接続方法（ある場合）

ケーブル露出配線の場合

(1) 取付場所を選定する

- ①お客様と相談して使いやすい場所を選んでください。
- ②ガステーブルなど燃焼器具の上以外の場所を選んでください。
- ③直射日光・水しぶき・蒸気・水滴がかからない場所を選んでください。

(2) 取付前の準備

- ①ケースカバーをはずす。
背面ケース上部の切り込み部に⊖ドライバーなどを差し込み、はずす

(3) ケーブル線の接続準備

- ①台所リモコンの露出配線用ノックアウト穴をニッパー、ナイフなどであける。

(4) 台所リモコンと配線ケーブルを接続

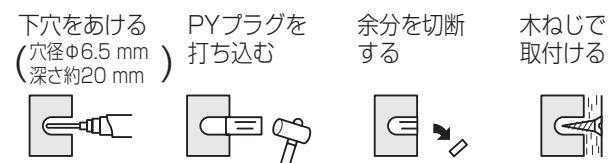
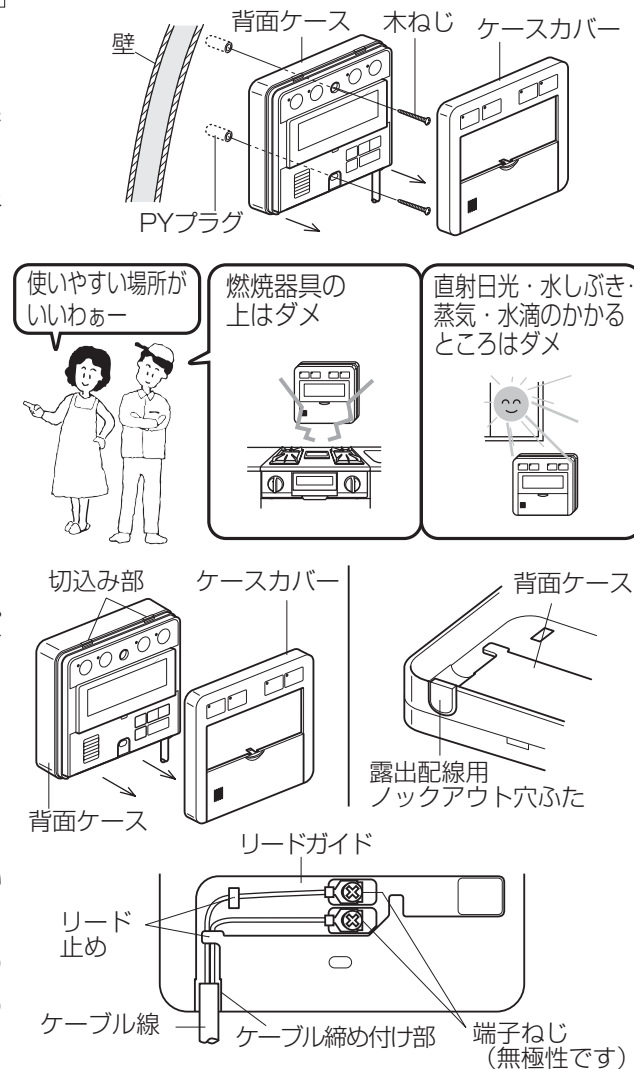
- ①ケース裏面の端子ねじをゆるめ、Y端子を使用し、接続する。(2本)
無極性ですのでどちらの端子台に接続してもかまいません。
- ②2心リード線をリードガイド内にはわしリード止めに止める。ケーブル線はケーブルガイド内におさめてください。

(5) ケースを同梱の木ねじ(2本)で取り付ける

- 必ず同梱の木ねじを使用してください。
- 壁が弱い状態のときは、「はり」などの補強をしてください。
- コンクリート・モルタルなどの壁のときは、PYプラグを壁に打ち込み、木ねじで取り付けてください。

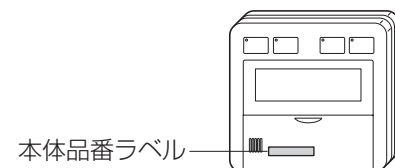
(6) ケースカバーの取り付け

- ケースカバーをはめ込んでください。



〔お願い〕

- 機器本体に同梱の本体品番ラベルの中から、本体品番を照合して右記の位置に貼り付けてください。



ケーブル埋込配線の場合

(1) 台所リモコンの取付場所

- ケーブル露出配線の場合を参照してください。

(2) 壁にスイッチボックス・電線管用の穴をあける

- 壁にスイッチボックス電線管用の穴をあけてください。
- 取付け寸法をまちがわないように穴をあけてください。

(3) スwitchボックス・電線管を埋込む

- 電線管を先に埋込んでからスイッチボックスを埋込んでください。
- スイッチボックスは壁の仕上げ面と同一面になるようにしてください。

(4) ケーブル線を電線管に通す

- スイッチボックス側より挿入してください。

(5) 台所リモコンとケーブル線を接続する

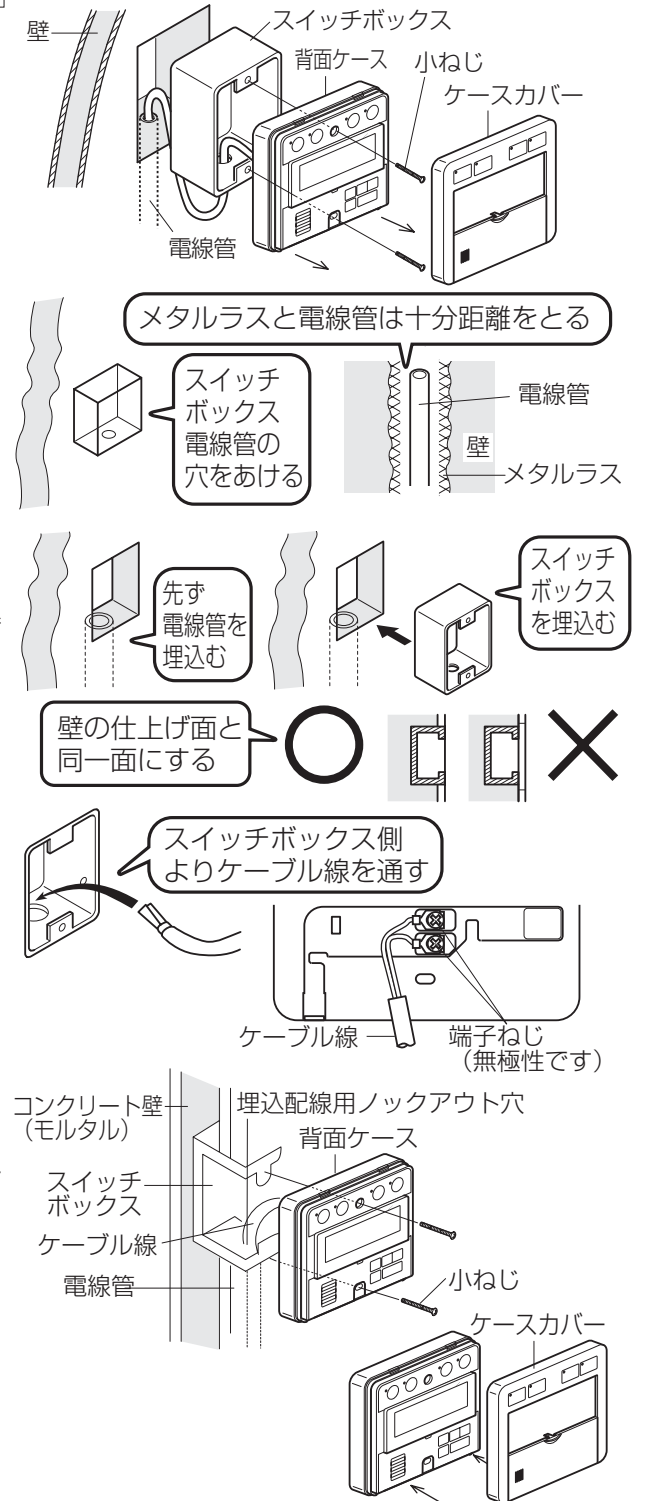
- ケース裏面の端子ねじをゆるめ、Y端子を使用し、ケーブル線を接続してください。(2本)

(6) ケースを壁に固定する

- 配線ボックスの取付ねじ穴に、ケースの取付穴を合わせ、同梱の小ねじ(2本)で固定してください。

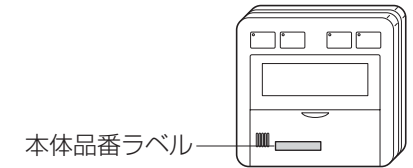
(7) ケースカバーの取り付け

- ケースカバーをはめ込んでください。



〔お願い〕

- 機器本体に同梱の本体品番ラベルの中から、本体品番を照合して右記の位置に貼り付けてください。



試運転

■給湯配管の漏れ確認

次の手順に基づき、試点火・試運転を行ってください。
給水元栓を開け、台所、浴室の給湯栓およびシャワー栓を「開」・「閉」にし、水漏れなどの確認をしてください。

準備および操作方法

準備

1. 浴そうの栓をする。 2. ガス栓を開ける。 3. 給水元栓を開ける。
4. 電源プラグを入れる。 5. 運転スイッチが「切」であることを確認。
【お知らせ】 ● 試運転の時は、ガス配管中の空気が抜けるまで火がつきません。
【お願い】 ● 必ず浴そうに水の無い状態から行ってください。

浴室リモコンで 操作する場合	1	試運転開始 39ページの①～④の操作をする。	2	試運転完了 浴室リモコンの Endが出たら試運 転完了です。	3	試運転解除 浴室リモコンの運転ス イッチを押す。 機器本体の試運転ス イッチを2秒以上押し ても解除できます。 (LED消灯)	
	機器本体側で 操作する場合	1	試運転開始 39ページの①～③の操作をする。 (LED点灯)	2	試運転完了 浴室リモコンの Endが出たら試運 転完了です。	3	試運転解除 試運転スイッチを2秒 以上押し。 (LED消灯) 浴室リモコンの運転ス イッチを押しても解除で きます。
		<div>浴そうの状態</div> <div>お湯はり開始 「」がついたり消えたりします。 お湯はり終了する と追いだき開始</div> <div>浴そうの湯温を約1℃ 上昇させると自動停止</div> <div>浴そう水の排水</div>					

浴室リモコンの表示
(コード接続式の場合)

＜全自動タイプの場合＞*

温度 40 40 P I L

温度 40 40 P I L

End

温度 40 40 0:00

＜自動タイプの場合＞*

温度 35 35 P I L

温度 40 35 P I L

End

温度 40 40 0:00

浴室リモコンの表示
(コードレスの場合)

＜全自動タイプの場合＞

給湯 シャワー P I L 40 5

給湯 シャワー P I L 40 5

給湯 シャワー End

給湯 シャワー 40 5

＜自動タイプの場合＞

給湯 シャワー P I L 35 100

給湯 シャワー P I L 40 100

給湯 シャワー End

給湯 シャワー 40 100

*最初の5秒間はふろ湯量を表示します。

機器の試運転 〈浴室リモコンで操作する場合〉

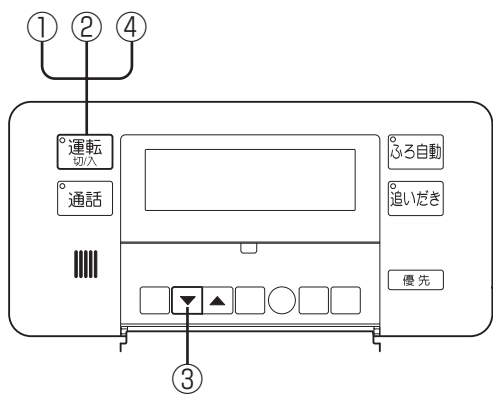
浴室リモコンから試点火・試運転を行う場合、次の手順に従ってください。

■コード接続式リモコンの場合

(リモコンのイラストはコミュニケーションリモコンで説明していますが、ボイスリモコンも同じ要領で出来ます。)

- ① を押し、「入」の状態にする。
- ② を押し、「切」の状態にする。
- ③ を押した状態で
- ④ を2秒以上押す。

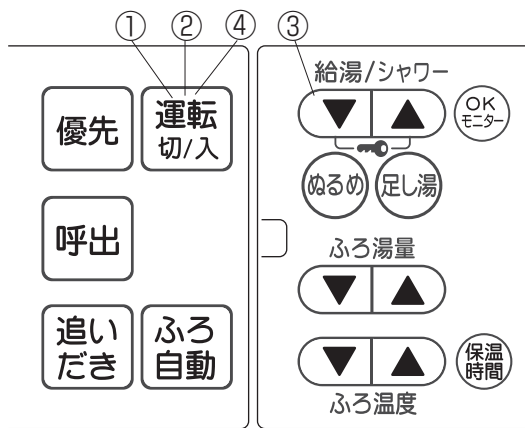
「お湯はり」・「追いだき」運転を自動で行います。
※台所リモコンでも同じ要領で試運転操作ができます。



■コードレスリモコンの場合

- ① を押し、「入」の状態にする。
- ② を押し、「切」の状態にする。
(5秒以内に)
- ③ 給湯/シャワーの を押した状態で
- ④ を2秒以上押す。

「お湯はり」・「追いだき」運転を自動で行います。
※台所リモコンでも同じ要領で試運転操作ができます。



機器の試運転 〈機器本体側で操作する場合〉

機器本体側から試運転を行う場合、次の手順に従ってください。

■機器本体側での操作手順

- ① リモコンの運転スイッチを「切」にする。
- ② フロントカバー下部のサービス扉を開ける。
- ③ 試運転スイッチを2秒以上押す。
(LED点灯)
「お湯はり」・「追いだき」運転を自動で行います。

※試運転スイッチ操作中に他のスイッチを入
るとその運転モードに変わります。
リモコンの運転スイッチが「切」の状態で
ないと試運転はスタートしません。

